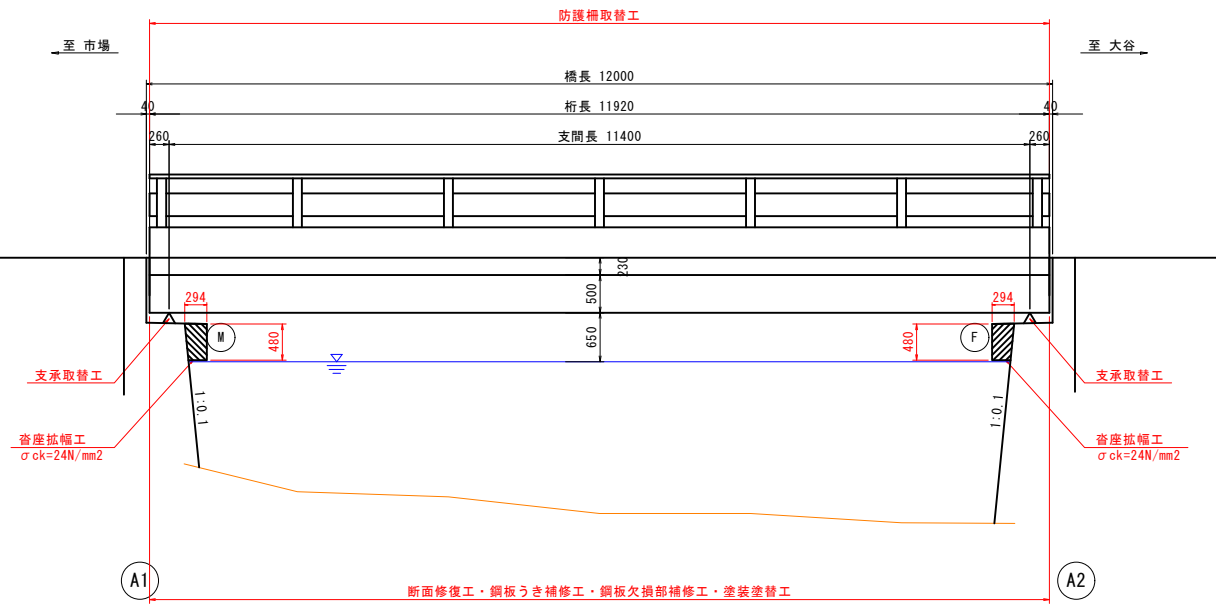
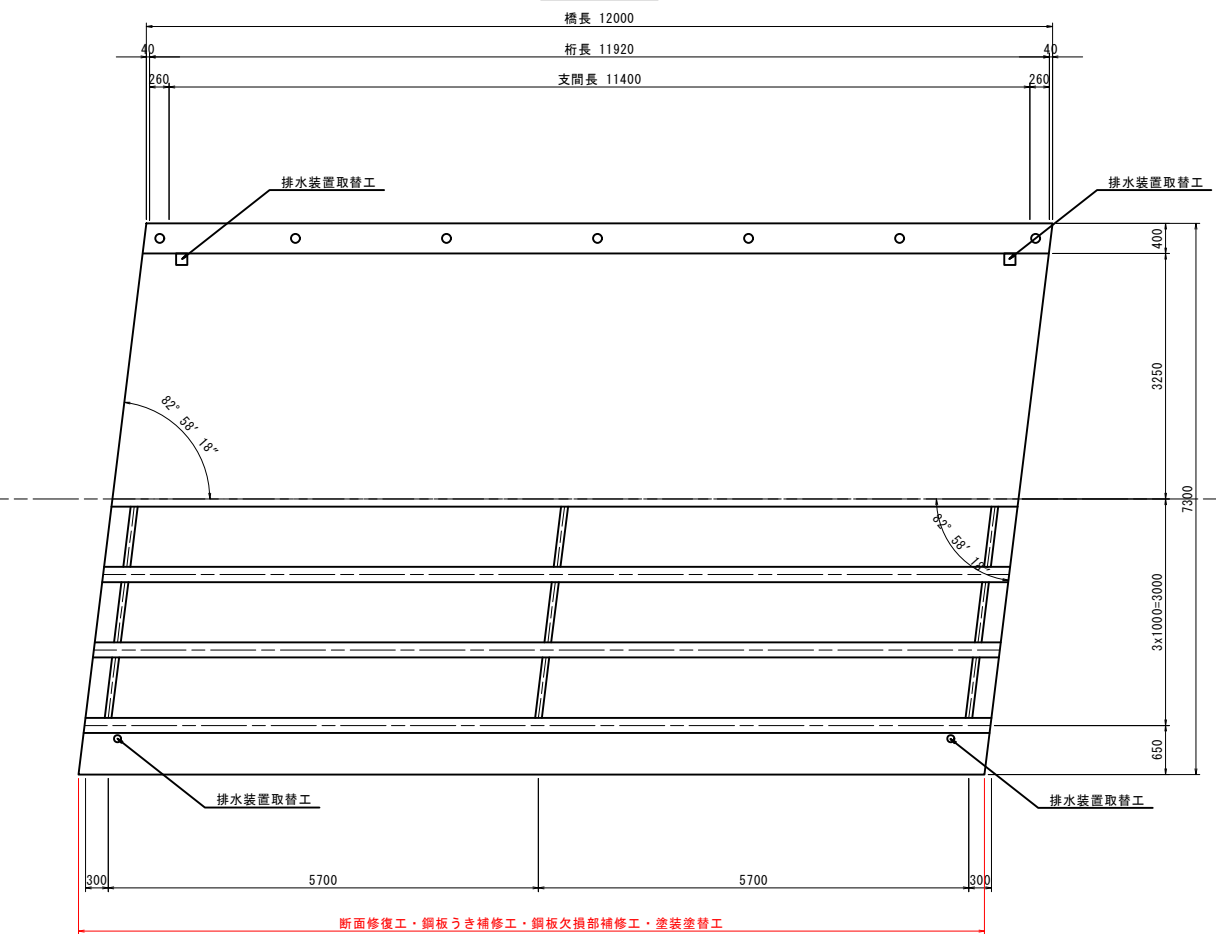


補修一般図 S=1:50

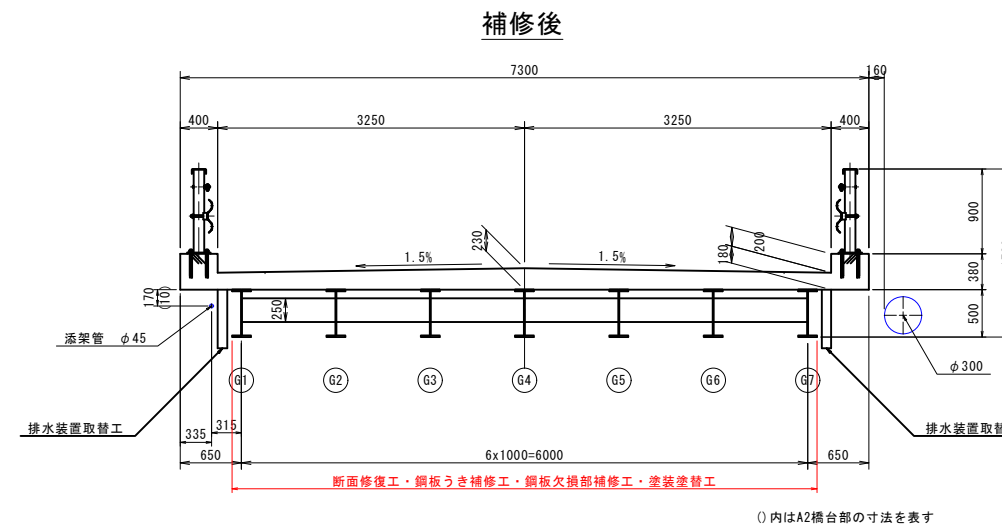
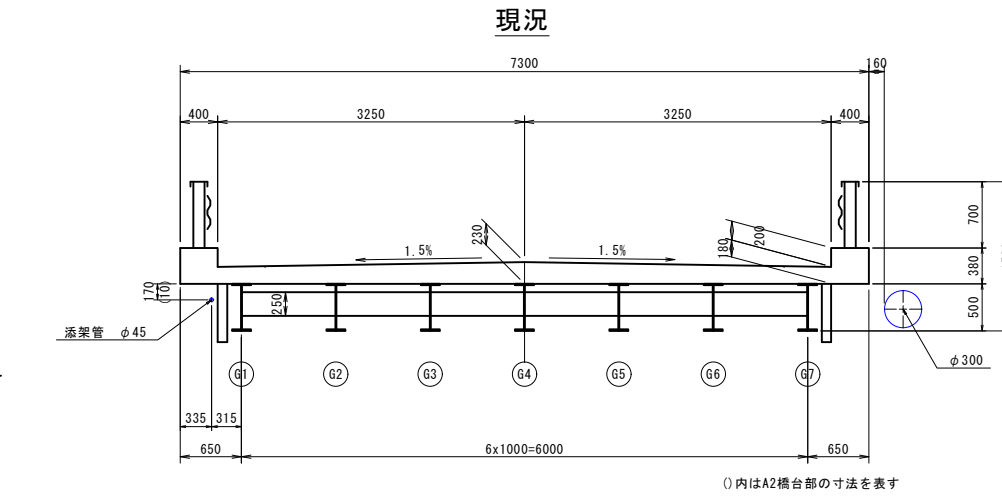
側面図



平面図



断面図 S=1:30



【桁受け～主桁下フランジ】 (単位: mm)

	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7
A1橋台	60	70	70	70	70	70	60
A2橋台	60	60	60	60	60	60	60

【橋梁諸元】

項目	諸元
橋梁名称	堀江中央線4号橋
所在地	(自) 徳島県鳴門市大麻町西馬詰 (至) 徳島県鳴門市大麻町松村
路線名	堀江中央線
管轄	徳島県鳴門市
橋長	12.00m
桁長	11.92m
幅員	全幅: 7.30m、有効幅員: 6.50m 地覆0.40m+歩道0.00m+車道3.25m+歩道0.00m+地覆0.40m
上部工形式	鋼溶接橋 H形鋼 (合成)
下部工形式	重力式橋台2基
基礎工形式	不明
設計荷重	不明
適用示方書	不明
架設年度	不明
交差物件	土池川放水路
添架物	水道管
緊急輸送路の指定	無し

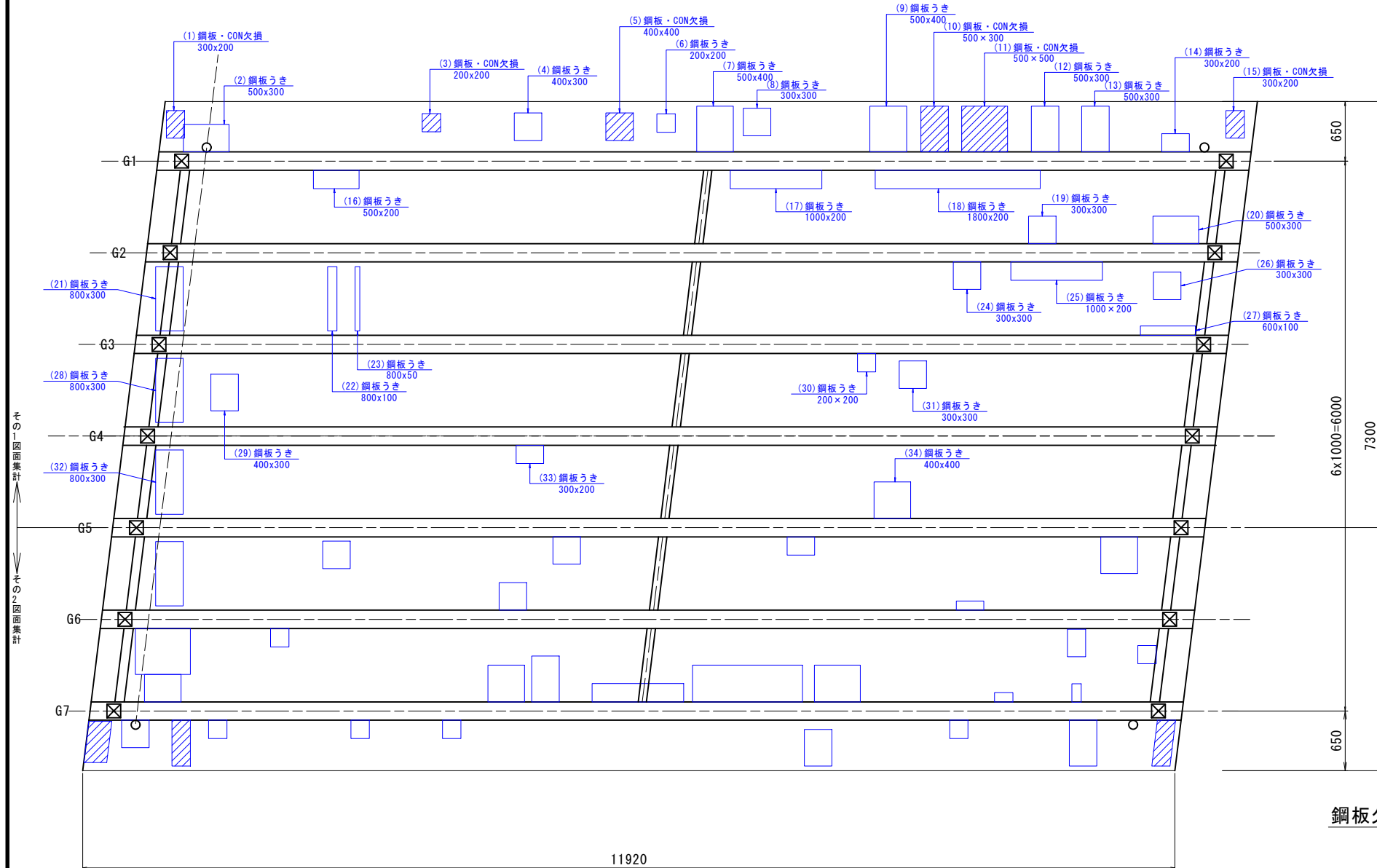
注記
 1. 本図面は、既存資料を基に現地計測やスケールアップ等にて図化したものである。
 2. 詳細な寸法等に不明箇所がある為、必要に応じて再計測等を実施すること。

図面番号	第 1 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	補修一般図	縮尺: 図示	
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査

鳴門市 都市建設部 土木課

補修詳細図(その1) S=1:60

平面図
床版下面



【左側張出】

箇所	範囲	注入面積 (m ²)	断面修復面積 (m ²)	断面修復体積 (m ³)	あて板鋼板面積 (m ²)
(1)	300 × 200	0.060	0.060	0.004	0.100
(2)	500 × 300	0.150			
(3)	200 × 200	0.040	0.040	0.003	0.090
(4)	400 × 300	0.120			
(5)	400 × 400	0.160	0.160	0.011	0.250
(6)	200 × 200	0.040			
(7)	500 × 400	0.200			
(8)	300 × 300	0.090			
(9)	500 × 400	0.200			
(10)	500 × 300	0.150	0.150	0.011	0.220
(11)	500 × 500	0.250	0.250	0.018	0.330
(12)	500 × 300	0.150			
(13)	500 × 300	0.150			
(14)	300 × 200	0.060			
(15)	300 × 200	0.060	0.060	0.004	0.120
計		1.880	0.720	0.050	1.110

※断面修復工の平均厚を70mmとする

【G1-G2】

箇所	範囲	注入面積 (m ²)
(16)	500 × 200	0.100
(17)	1000 × 200	0.200
(18)	1800 × 200	0.360
(19)	300 × 300	0.090
(20)	500 × 300	0.150
計		0.900

【G2-G3】

箇所	範囲	注入面積 (m ²)
(21)	800 × 300	0.240
(22)	800 × 100	0.080
(23)	800 × 50	0.040
(24)	300 × 300	0.090
(25)	1000 × 200	0.200
(26)	300 × 300	0.090
(27)	600 × 100	0.060
計		0.800

【G3-G4】

箇所	範囲	注入面積 (m ²)
(28)	800 × 300	0.240
(29)	400 × 300	0.120
(30)	200 × 200	0.040
(31)	300 × 300	0.090
計		0.490

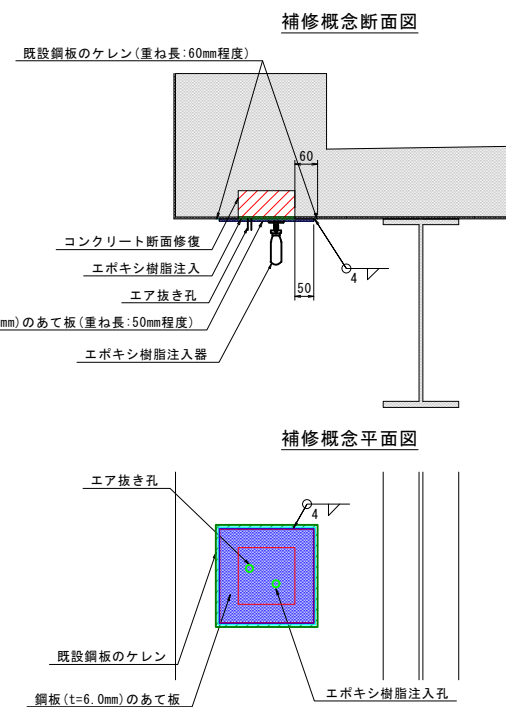
【G4-G5】

箇所	範囲	注入面積 (m ²)
(32)	800 × 300	0.240
(33)	300 × 200	0.060
(34)	400 × 400	0.160
計		0.460

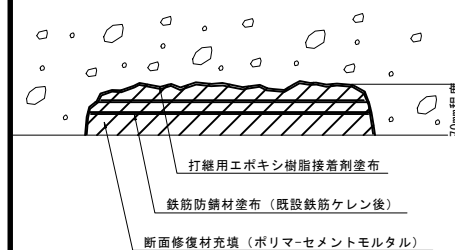
【集計表】

	注入面積 (m ²)	断面修復面積 (m ²)	断面修復体積 (m ³)	あて板鋼板面積 (m ²)
左側張出～G5 合計	4.530	0.720	0.050	1.110

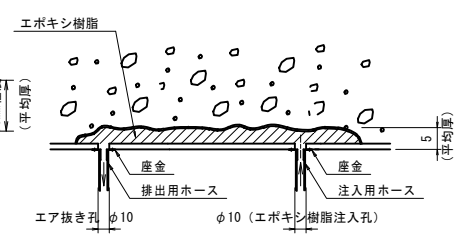
鋼板欠損部補修工詳細図



断面修復工詳細図
鉄筋露出部



コンクリート補強材補修工 S=1:4
(エポキシ樹脂再注入)



※エポキシ樹脂注入孔及びエア抜き工は、現場にて適宜行うこと。

1. 注入器具
設置間隔: ctc200mm
$$N = 4.53 / (\pi/4 \times 0.20 \times 0.20) = 144 \text{ 本}$$
2. 注入材(想定注入厚5mm、比重1.2、ロス率15%)
$$W = \text{再注入面積} \times 5\text{mm} \times 1.2 \times 1.15 \text{【算出式】}$$

$$= 4.53 \times 0.005 \times 1200 \times 1.15 = 31.26 \text{ kg}$$
3. 現場孔明
$$N = 144 \text{ 本}$$
4. 注入器具廻りのシール材
1本当たり = $0.04 \times 0.04 \times 0.003 \times 1700 \times 1.15$
$$= 0.0094 \text{ kg/本}$$

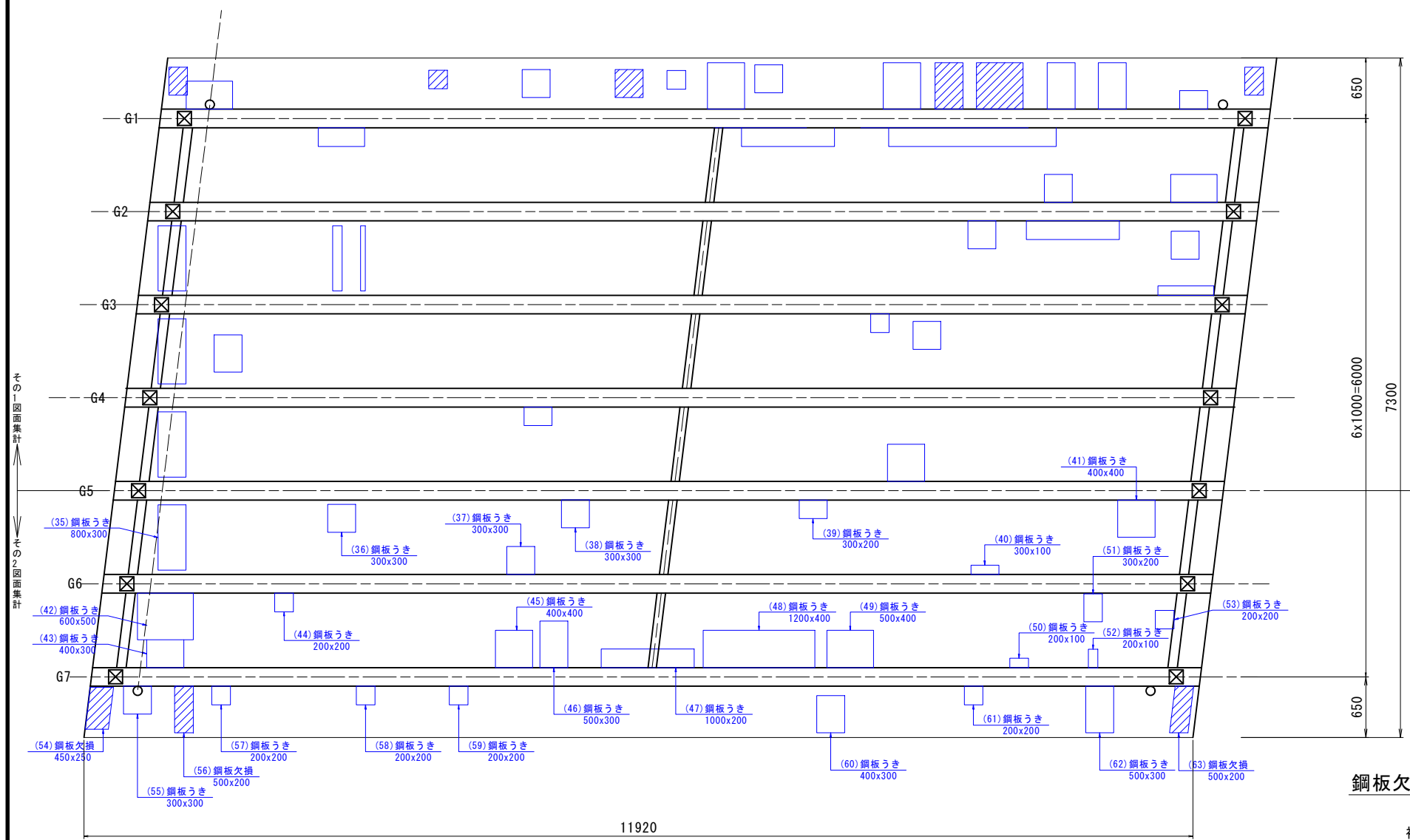
$$\therefore 144 \times 0.0094 = 1.35 \text{ kg}$$

※施工に際しては、現地調査のうえ注入箇所を決定すること。
※現場合わせのうえ施工を行うこと。
※使用材料については、発注者と協議のうえ決定すること。
※あて板の範囲は、損傷幅+50mm(両側)で決定する。
ただし、主桁との接触面など50mm確保できない箇所は考慮しない。

図面番号	第 2 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その1)		縮尺: 図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査

補修詳細図(その2) S=1:60

平面図
床版下面



箇所	範囲	注入面積 (m ²)
(35)	800 × 300	0.240
(36)	300 × 300	0.090
(37)	300 × 300	0.090
(38)	300 × 300	0.090
(39)	300 × 200	0.060
(40)	300 × 100	0.030
(41)	400 × 400	0.160
計		0.760

箇所	範囲	注入面積 (m ²)
(42)	600 × 500	0.300
(43)	400 × 300	0.120
(44)	200 × 200	0.040
(45)	400 × 400	0.160
(46)	500 × 300	0.150
(47)	1000 × 200	0.200
(48)	1200 × 400	0.480
(49)	500 × 400	0.200
(50)	200 × 100	0.020
(51)	300 × 200	0.060
(52)	200 × 100	0.020
(53)	200 × 200	0.040
計		1.790

【右側張出】

箇所	範囲	注入面積 (m ²)	断面修復面積 (m ²)	断面修復体積 (m ³)	あて板鋼板面積 (m ²)
(54)	450 × 250	0.113	0.113	0.008	0.150
(55)	300 × 300	0.090			
(56)	500 × 200	0.100	0.100	0.007	0.165
(57)	200 × 200	0.040			
(58)	200 × 200	0.040			
(59)	200 × 200	0.040			
(60)	400 × 300	0.120			
(61)	200 × 200	0.040			
(62)	500 × 300	0.150			
(63)	500 × 200	0.100	0.100	0.007	0.165
計		0.833	0.313	0.022	0.480

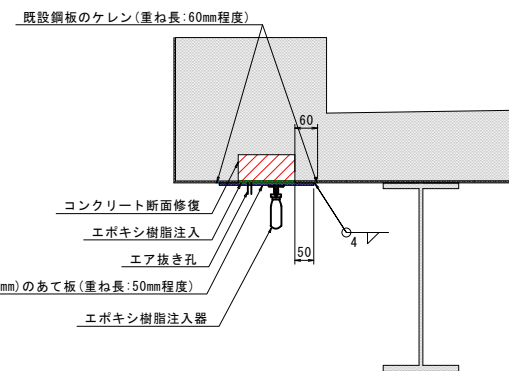
※断面修復工の平均厚を70mmとする

【集計表】

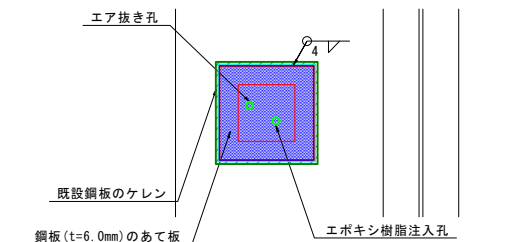
	注入面積 (m ²)	断面修復面積 (m ²)	断面修復体積 (m ³)	あて板鋼板面積 (m ²)
左側張出～G5 合計	4.530	0.720	0.050	1.110
G6～右側張出 合計	3.383	0.313	0.022	0.480
総計	7.913	1.033	0.072	1.590

鋼板欠損部補修工詳細図

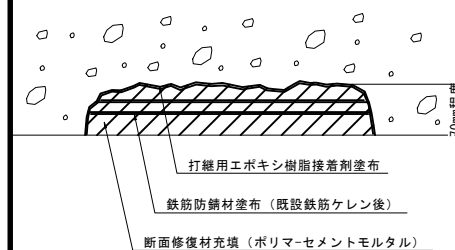
補修概念断面図



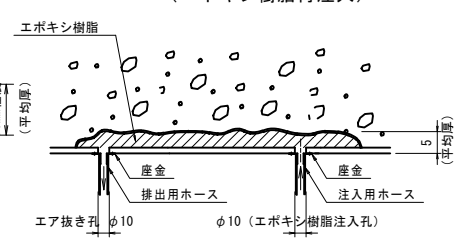
補修概念平面図



断面修復工詳細図
鉄筋露出部



コンクリート補強材補修工 S=1:4
(エポキシ樹脂再注入)



※エポキシ樹脂注入孔及びエア抜き工は、現場にて適宜行うこと。

1. 注入器具
設置間隔: ctc200mm
$$N = 3.38 / (\pi/4 \times 0.20 \times 0.20) = 108 \text{ 本}$$
2. 注入材(想定注入厚5mm、比重1.2、ロス率15%)
$$W = \text{再注入面積} \times 5\text{mm} \times 1.2 \times 1.15 \text{【算出式】}$$

$$= 3.38 \times 0.005 \times 1200 \times 1.15 = 23.32 \text{ kg}$$
3. 現場孔明
$$N = 108 \text{ 本}$$
4. 注入器具廻りのシール材
1本当たり = $0.04 \times 0.04 \times 0.003 \times 1700 \times 1.15$
$$= 0.0094 \text{ kg/本}$$

$$\therefore 108 \times 0.0094 = 1.02 \text{ kg}$$

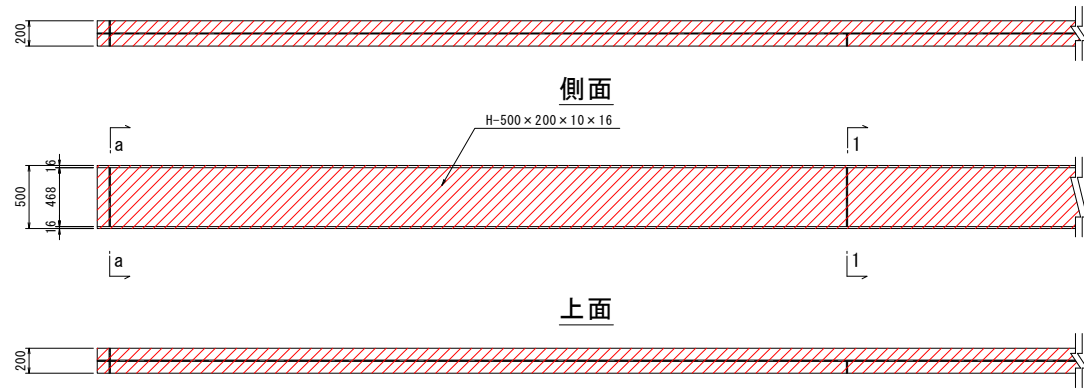
※施工に際しては、現地調査のうえ注入箇所を決定すること。
※現場合わせのうえ施工を行うこと。
※使用材料については、発注者と協議のうえ決定すること。
※あて板の範囲は、損傷幅+50mm(両側)で決定する。
ただし、主桁との接触面など50mm確保できない箇所は考慮しない。

図面番号	第 3 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その2)		縮尺: 図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査

塗装塗替詳細図(その1) S=1:30

主桁(G1)

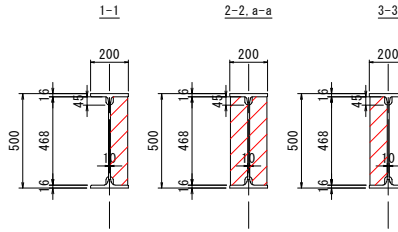
下面



側面

上面

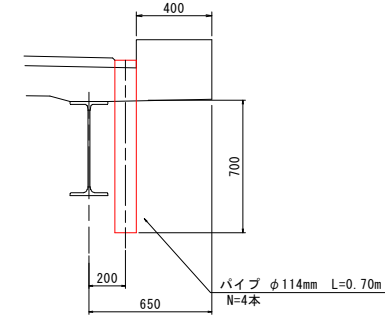
主桁断面 S=1:20



端対傾構

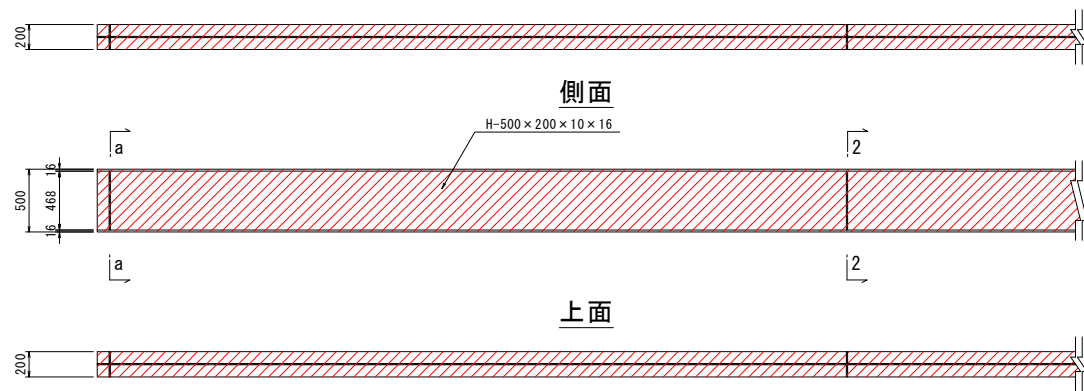
Cr01, 03

排水管 S=1:20



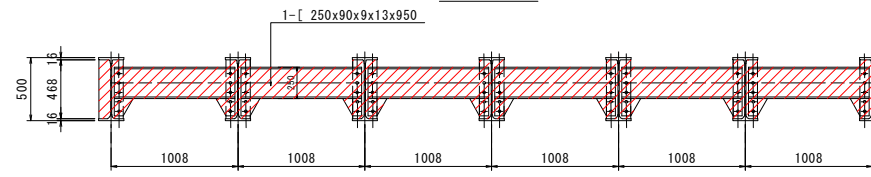
主桁(G2~G6)

下面



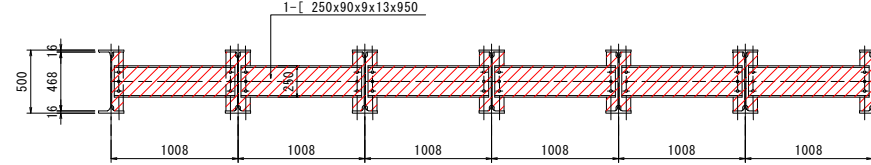
側面

上面



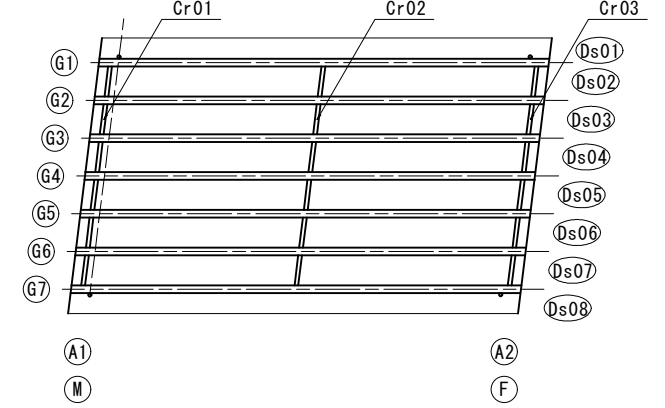
中間対傾構

Cr02



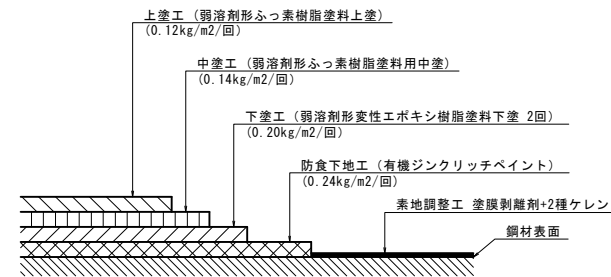
マーク図 S=1:100

平面図

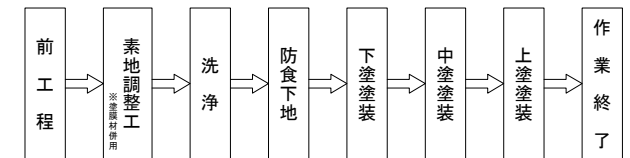


塗替え塗装要領

(Rc-II 塗装系)



塗替塗装工フロー図

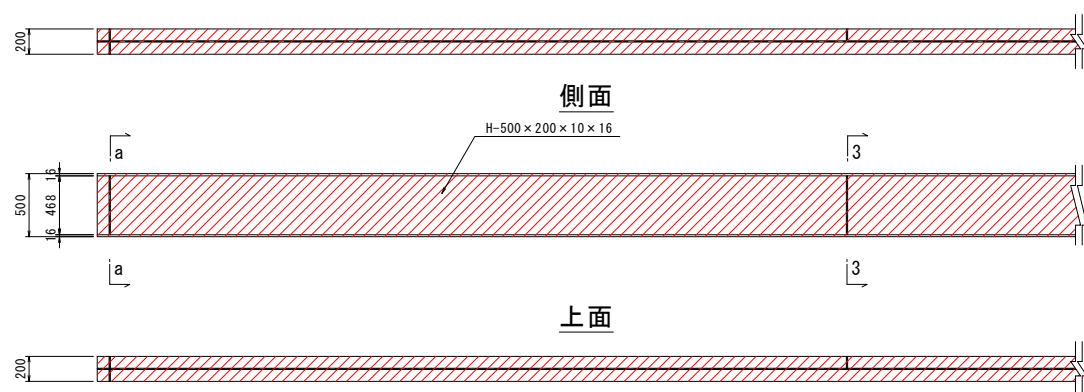


※留意点

- ・塗装塗替の対象部材は、主桁、横桁、鋼板床版、排水管であり、支承は対象外である。
- ・本橋梁は設計図書及び完成図書が存在せず、現地寸法計測により作図している。
- ・工事の際には、足場設置後に寸法計測を行い、相違が無いことを確認すること。
- ・本橋梁は塗膜調査の結果、鉛が含まれているため、塗膜剥離剤+2種ケレンによる素地調整を行う。
- ・剥離剤は塗料との相性により剥離時間が異なるため、施工時に試験を行い、最適な材料を選定することが望ましい。

主桁(G7)

下面



側面

上面

仕様一覧

(Rc-II 塗装系)

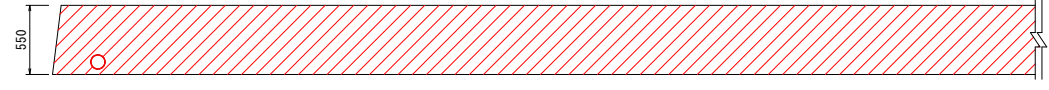
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤+2種ケレン		4時間以内
下塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	1日~10日

図面番号	第 4 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図(その1)		縮尺: 図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

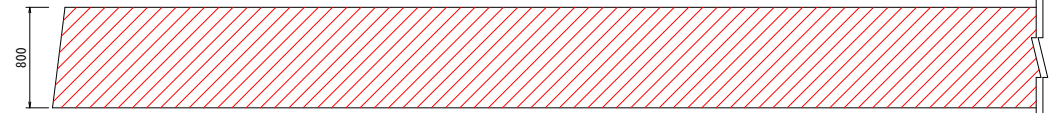
塗装塗替詳細図(その2) S=1:30

床版

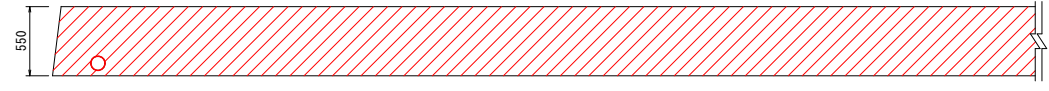
Ds01



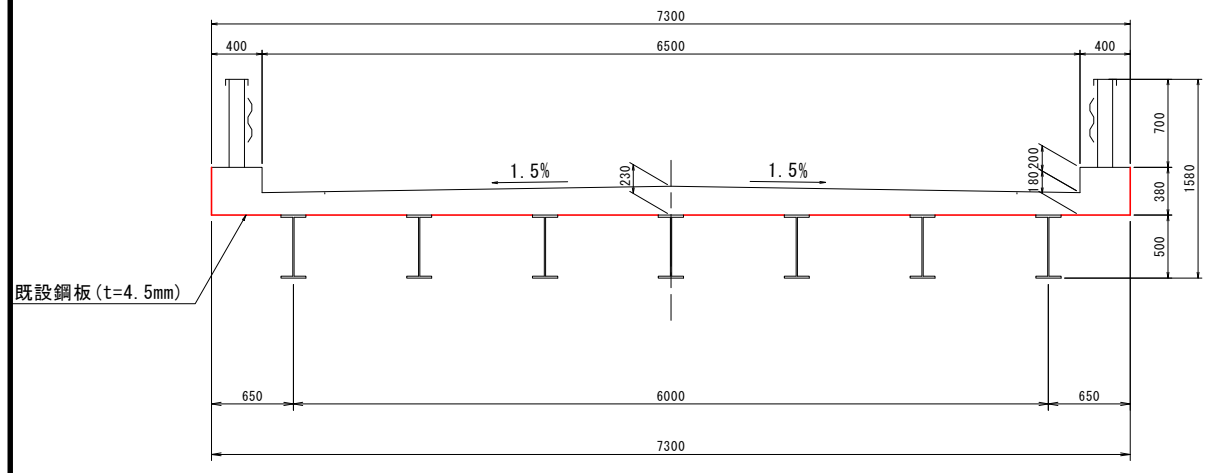
Ds02~Ds07



Ds08

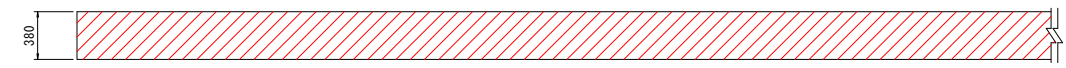


断面図



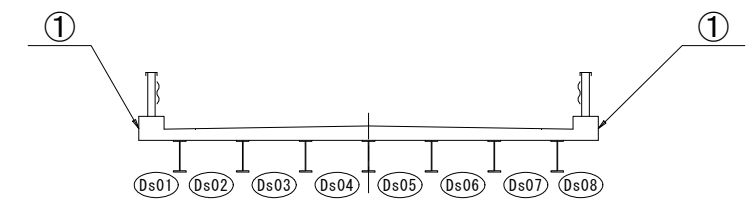
①:地覆

両側面



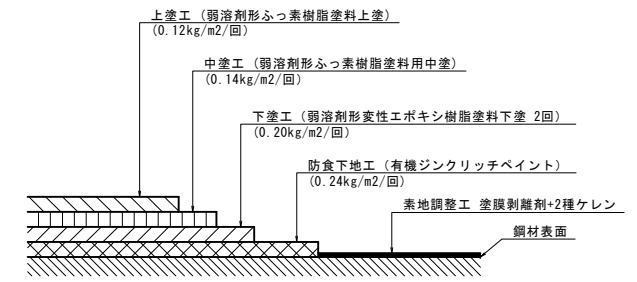
マーク図 S=1:60

断面図

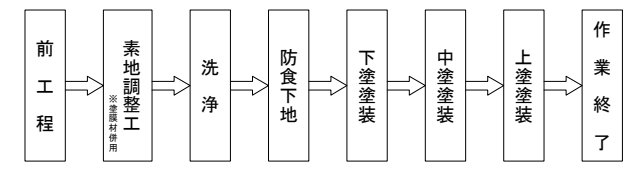


塗替え塗装要領

(Rc-II 塗装系)



塗替塗装工フロー図



※留意点

- ・ 塗装塗替の対象部材は、主桁、横桁、鋼板床版、排水管であり、支承は対象外である。
- ・ 本橋梁は設計図書及び完成図書が存在せず、現地寸法計測により作図している。
- ・ 工事の際には、足場設置後に寸法計測を行い、相違が無いことを確認すること。
- ・ 本橋梁は塗膜調査の結果、鉛が含まれているため、塗膜剥離剤+2種ケレンによる素地調整を行う。
- ・ 剥離剤は塗料との相性により剥離時間が異なるため、施工時に試験を行い、最適な材料を選定することが望ましい。

仕様一覧

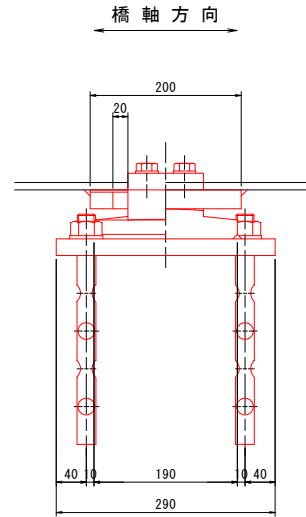
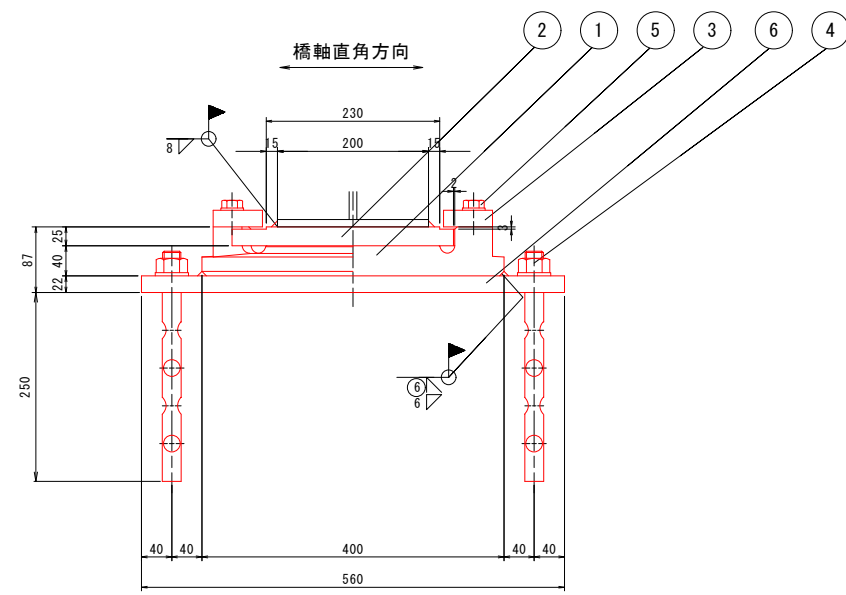
(Rc-II 塗装系)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤+2種ケレン		4時間以内
下塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	1日~10日

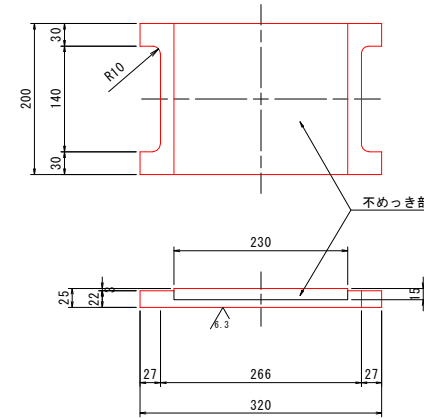
図面番号	第 5 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図(その2)		縮尺: 図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査

支承取替工詳細図(その1) S=1:5

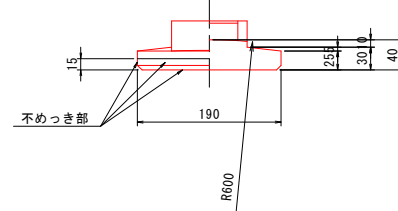
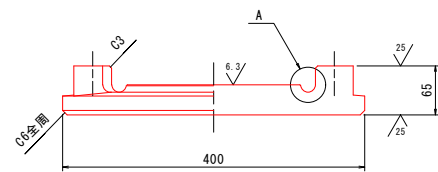
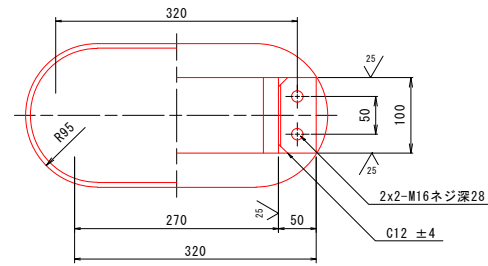
A1橋台：可動支承



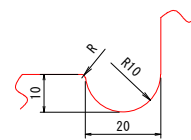
② 25/ (6.3/) SM490A



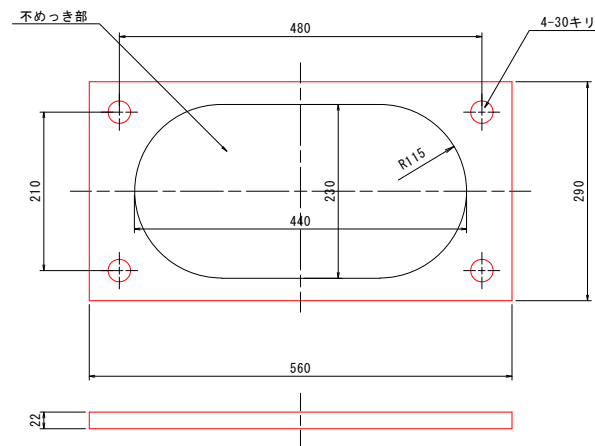
① 25/ (25/ 6.3/) SCW480N



A部詳細 S=1:1

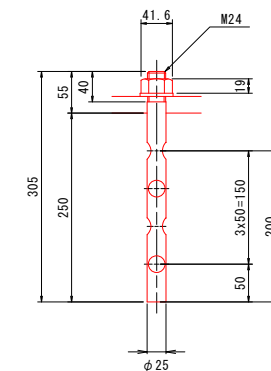


⑥ SM490A

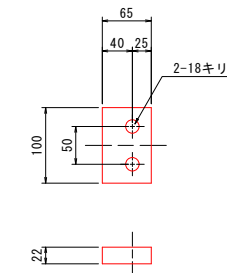


⑤ 六角ボルト 中 M16×50 強度区分4.8 (平座金付)

④ SS400 (平座金付き)



③ 25/ SS400



設計条件

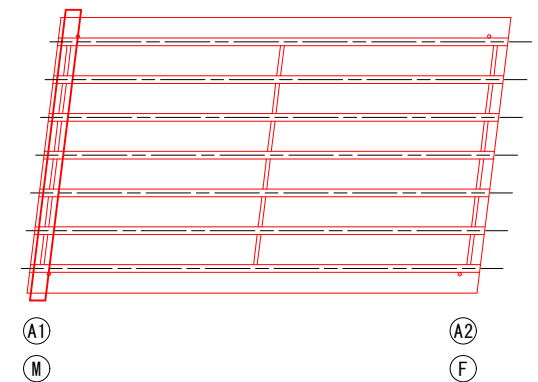
反力		
全反力	R	195 kN
死荷重反力	Rd	62 kN
橋軸方向水平力 (移動時)	R _{HT}	49 kN
橋軸方向水平力 (地震時)	R _{HS}	55 kN
橋軸直角方向水平力 (地震時)	R _{DS}	55 kN
上揚力 (地震時)	V	19 kN
移動量		
計算移動量	e1	- mm
移動可能量	e	40 mm
水平震度		
設計水平震度	k _{hc}	0.89
摩擦係数		
設計摩擦係数	f	0.25
支承条件		
橋軸方向：可動	橋軸直角方向：固定	

材料表

部番	部品名称	材質	個数	重量 (kg)	備考
①	下蓋	SCW480N	1	20.4	
②	上蓋	SM490A	1	10.8	
③	ピンチプレート	SS400	2	2.1	
④	アンカーボルト・ナット・座金	SS400	4	5.2	JIS B 1181 1種 中 M24
⑤	六角ボルト・座金	-	4	0.5	JIS B 1180 JIS B 1256
⑥	ベースプレート	SM490A	1	27.6	
				全重量	66.6 (kg)
一般外面の防食処理					
溶融亜鉛めっき 付着量550g/m ² 以上、350g/m ² 以上 (ボルト類)					

注1) 部番の○印部品をめっきのこと。
注2) 現場実測後、寸法決定のこと。

マーク図 S=1:100

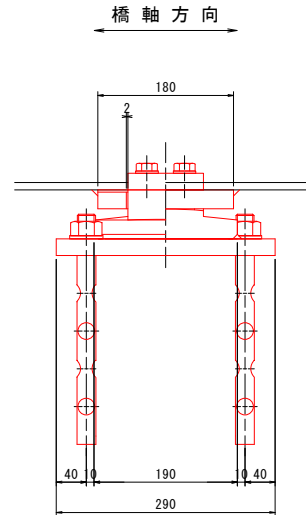
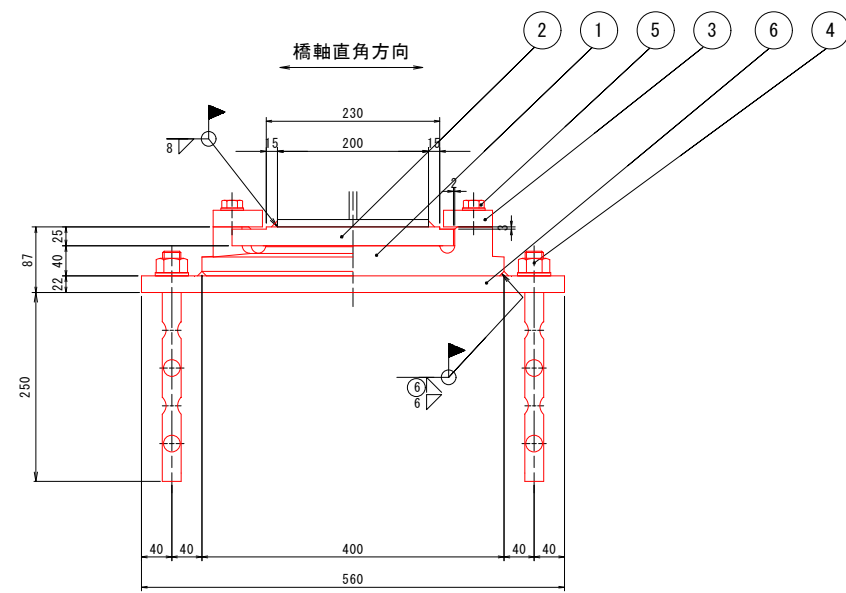


図面番号	第 6 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	支承取替工詳細図(その1)	縮尺	図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査

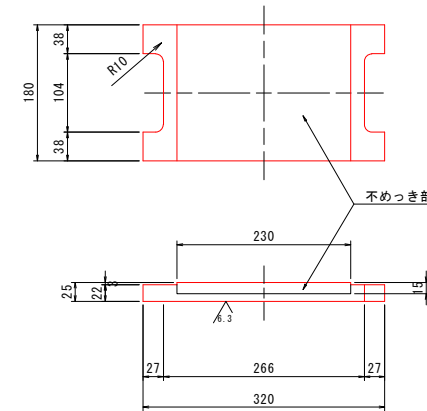
鳴門市 都市建設部 土木課

支承取替工詳細図(その2) S=1:5

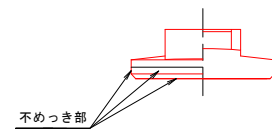
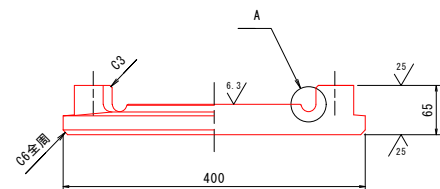
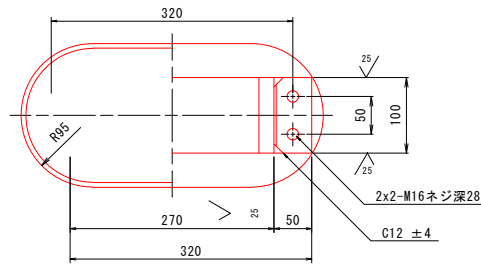
A2橋台：固定支承



② 25 (6.3) SM490A

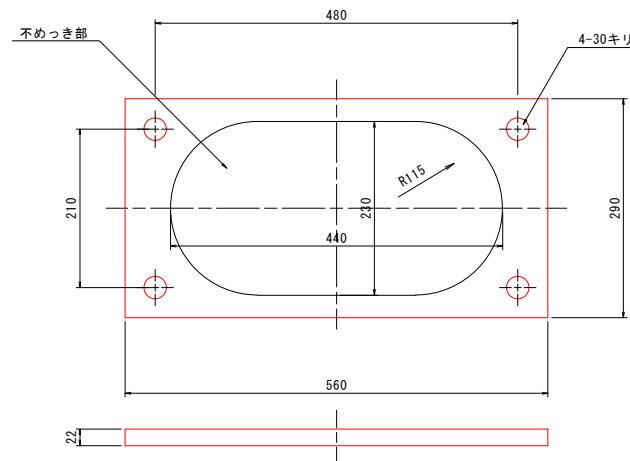


① 25 (6.3) SCW480N

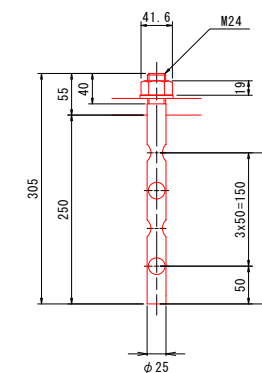


A部詳細 S=1:1

⑥ SM490A

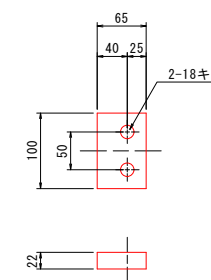


④ SS400 (平座金付き)



⑤ 六角ボルト 中 M16×50 強度区分4.8 (平座金付)

③ 25 SS400



設計条件

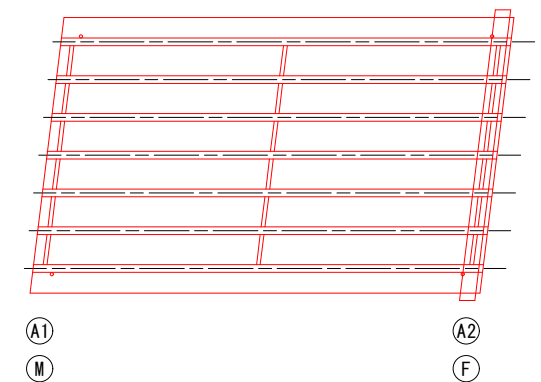
反力	
全反力	R 195 kN
死荷重反力	R _d 62 kN
橋軸方向水平力 (移動時)	R _{HT} 49 kN
橋軸方向水平力 (地震時)	R _{HT} 110 kN
橋軸直角方向水平力 (地震時)	R _{HT} 55 kN
上揚力 (地震時)	V 19 kN
水平震度	
設計水平震度	k _{hc} 0.89
摩擦係数	
設計摩擦係数	f 0.25
支承条件	
橋軸方向：固定	橋軸直角方向：固定

材料表

部番	部品名称	材質	個数	重量 (kg)	備考
①	下蓋	SCW480N	1	20.4	
②	上蓋	SM490A	1	10.0	
③	ピンチプレート	SS400	2	2.1	
④	アンカーボルト・ナット・座金	SS400	4	5.2	JIS B 1181 1種 中 M24
⑤	六角ボルト・座金	-	4	0.5	JIS B 1180 JIS B 1256
⑥	ベースプレート	SM490A	1	27.6	
全重量				65.8 (kg)	
一般外面の防食処理					
溶融亜鉛めっき 付着量550g/m ² 以上、350g/m ² 以上 (ボルト類)					

注1) 部番の○印部品をめっきのこと。
注2) 現場実測後、寸法決定のこと。

マーク図 S=1:100



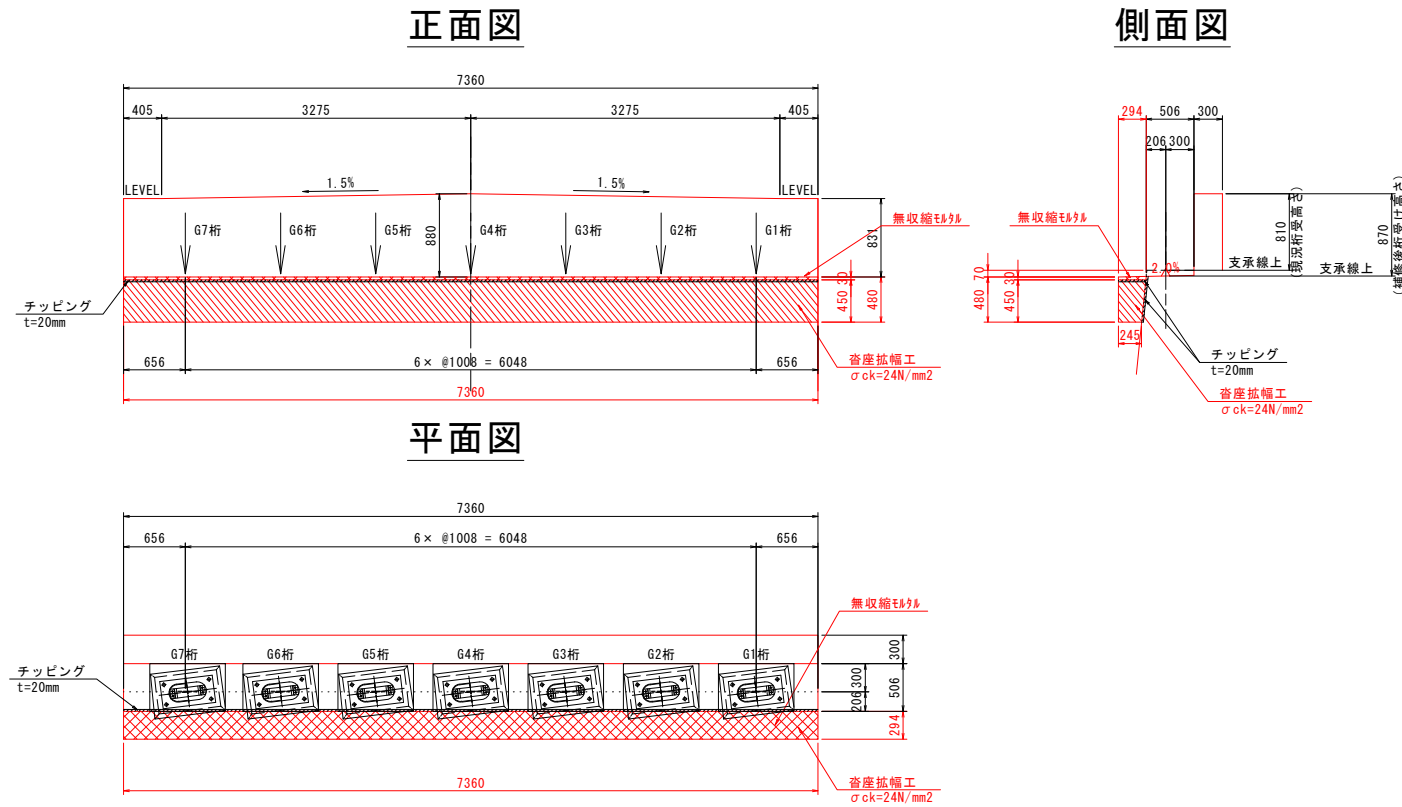
図面番号	第 7 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	支承取替工詳細図(その2)		縮尺：図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査

鳴門市 都市建設部 土木課

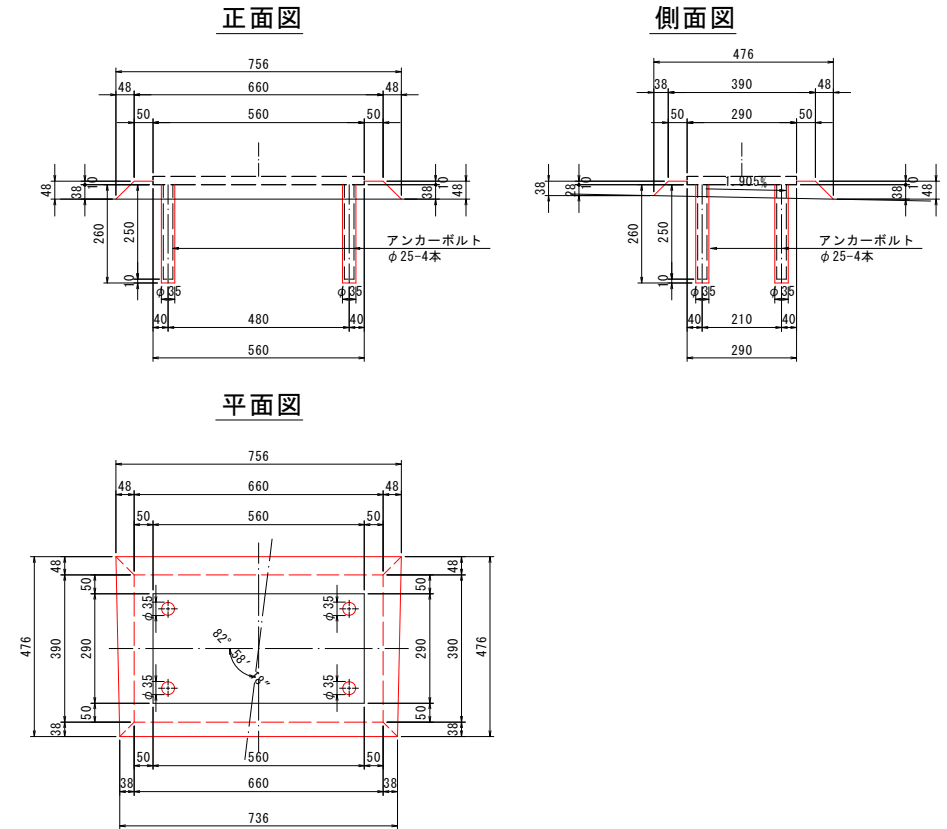
沓座拡幅工構造図 S=1:40

支承モルタル詳細図 S=1:10

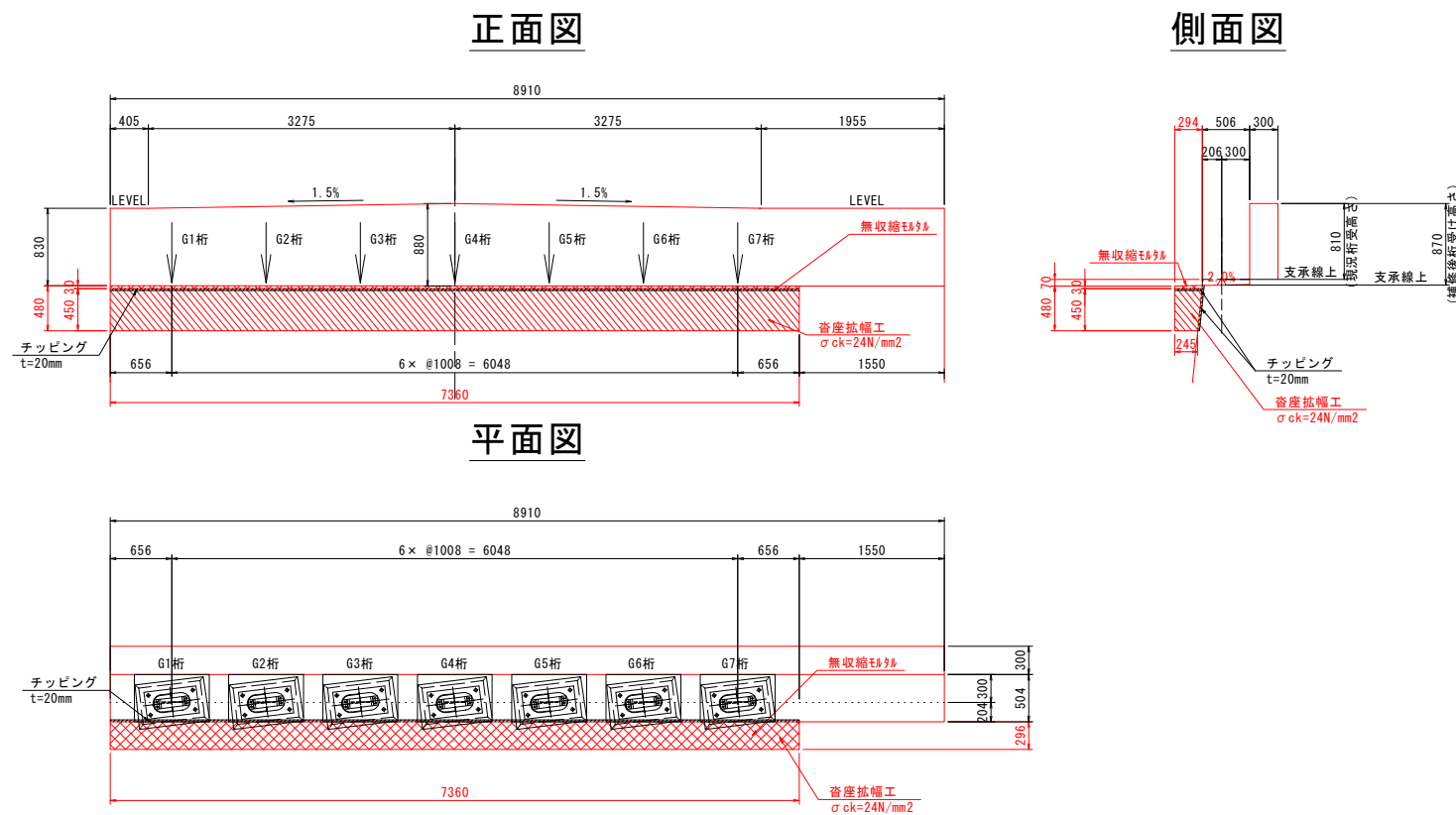
A1橋台



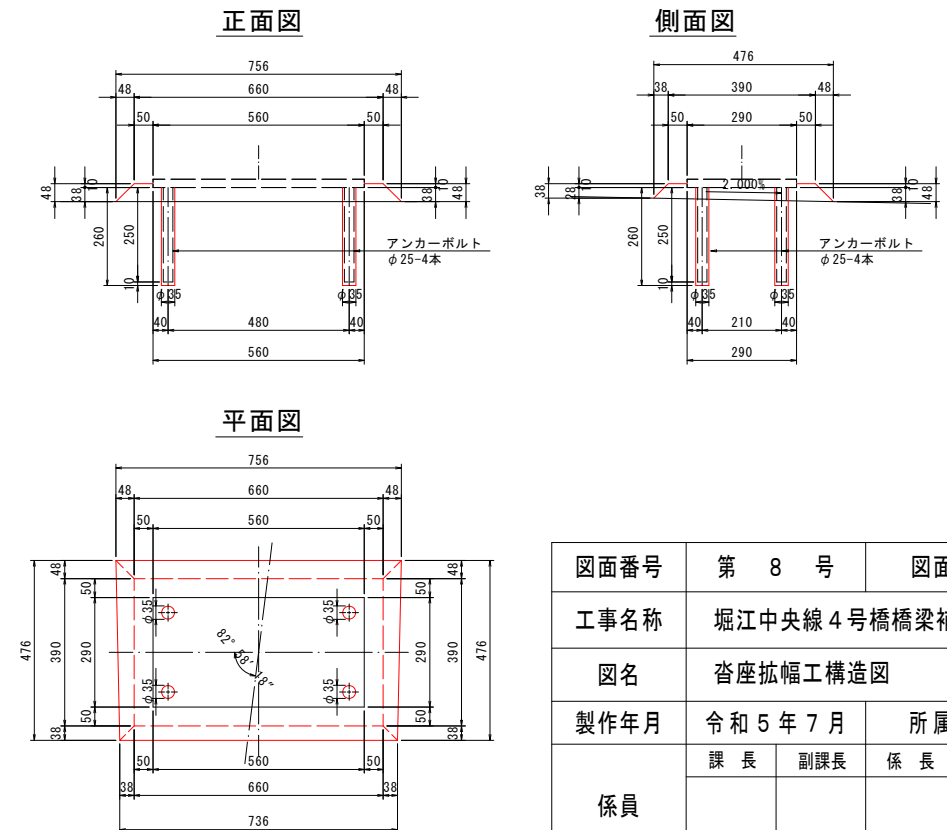
A1橋台



A2橋台



A2橋台



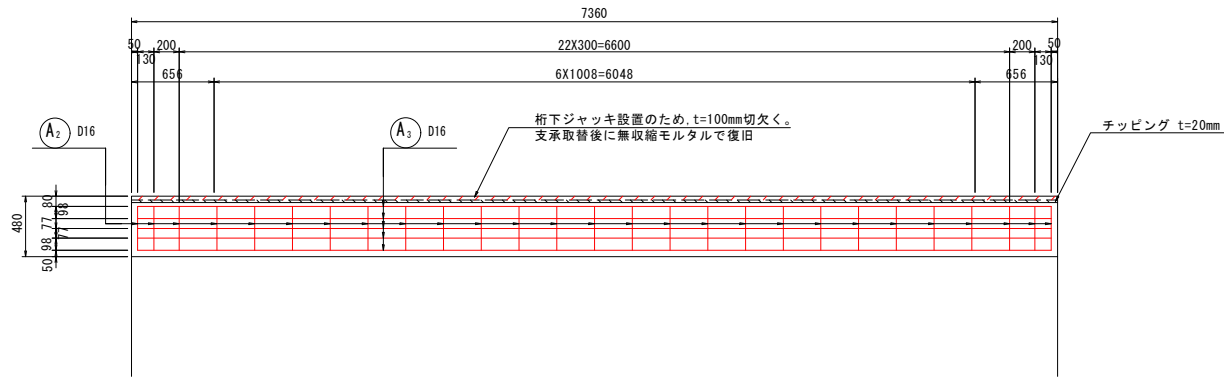
注) 現地実測の上、数量を確定すること。

図面番号	第 8 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	沓座拡幅工構造図		縮尺: 図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

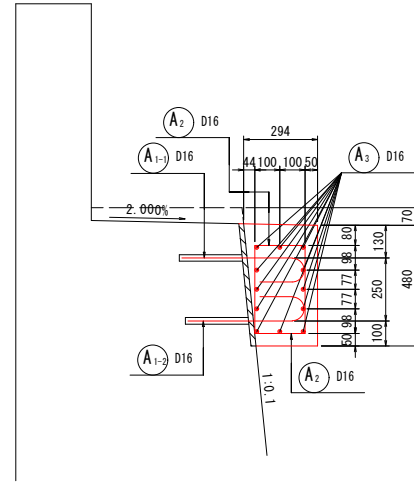
沓座拡幅工配筋図 S=1:30

A1, A2橋台

正面図



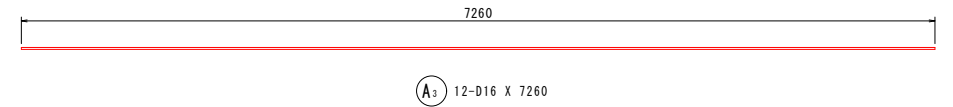
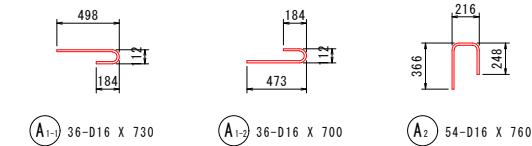
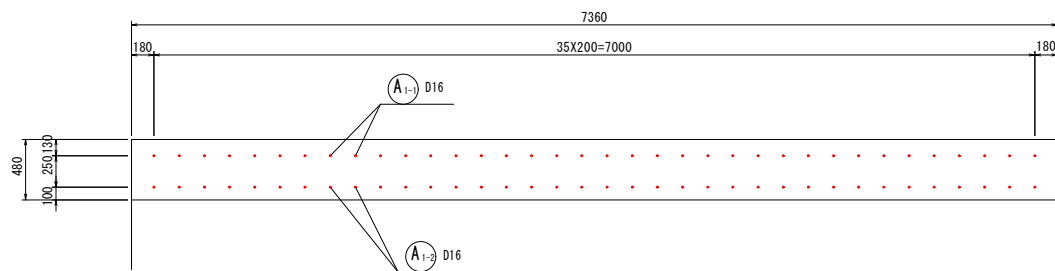
断面図 1:15



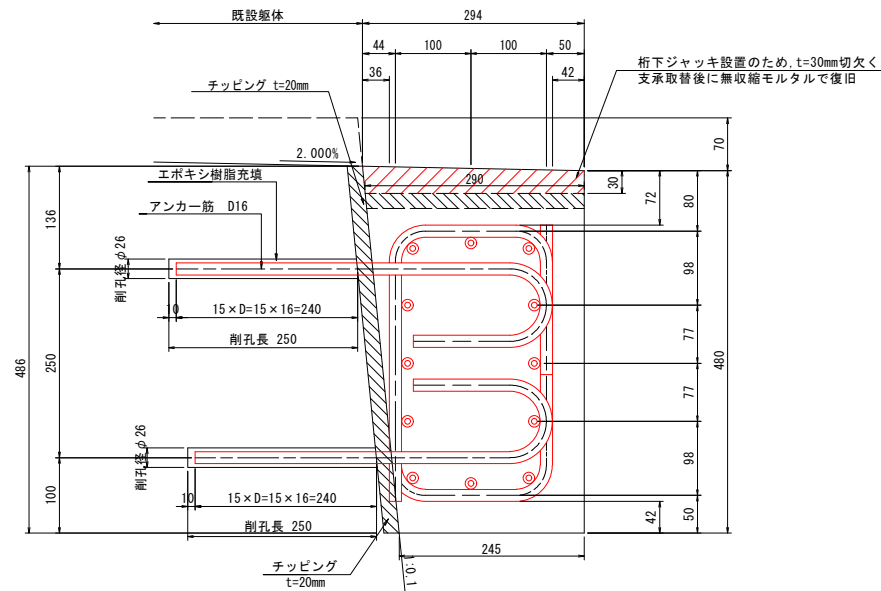
鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
A1-1	D16	730	36	1.56	1.14	41	U
A1-2	D16	700	36	1.56	1.09	39	
A2	D16	760	54	1.56	1.19	64	P
A3	D16	7260	12	1.56	11.33	136	
						280	
合計 D16				280 kg			
総質量				280 kg	(橋台1基当たり)		

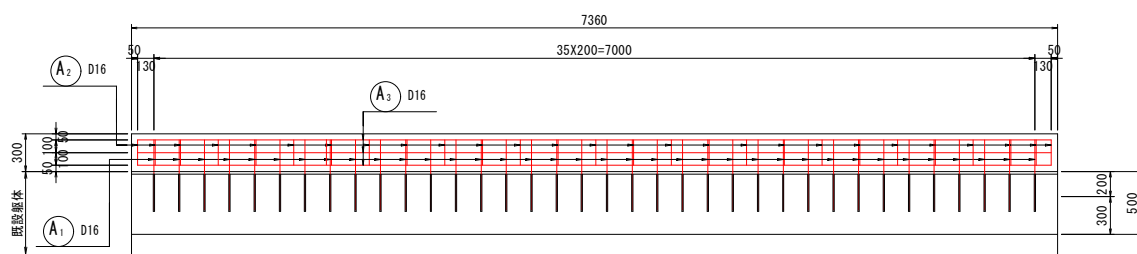
アンカー削孔位置



かぶり詳細図 S=1:5



平面図



使用材料

コンクリート	設計基準強度 $\sigma_{ck}=24N/mm^2$
鉄筋	SD345

Se値寸法表 (桁かかり長)

	現況桁かかり長	必要桁かかり長	不足量	拡幅量
A1, A2	0.500	0.757	0.257	0.294

注記

- ※コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ とする。
- ※施工に先立ち現地実測を行い形状決定を行うこと。
- ※コンクリート接触面は全面チップング $t=20mm$ 程度行うこと。
- ※アンカー鉄筋の定着は既設橋台面より橋軸方向に $15 \cdot D$ 以上を確保すること。
- ※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
- ※φの削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。
- ※コンクリートは自己充填が可能な性能(ex. 24-65-10N程度を想定)を有しているものを使用することとし、現地状況に応じて適宜変更すること。

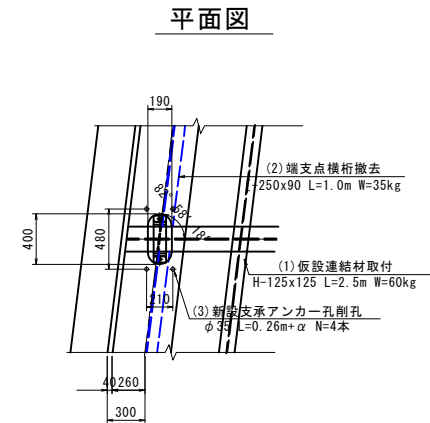
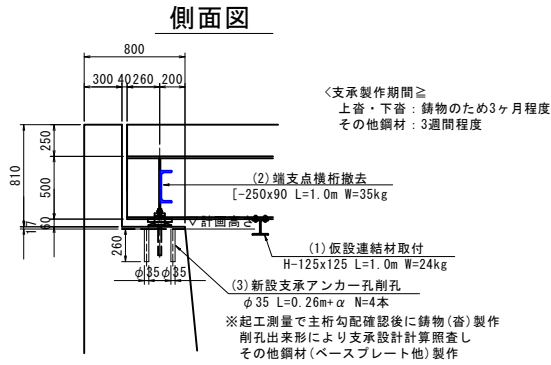
図面番号	第 9 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋梁補修工事		
図名	沓座拡幅工配筋図	縮尺	図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

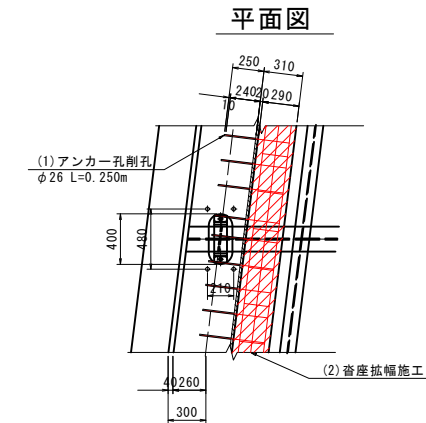
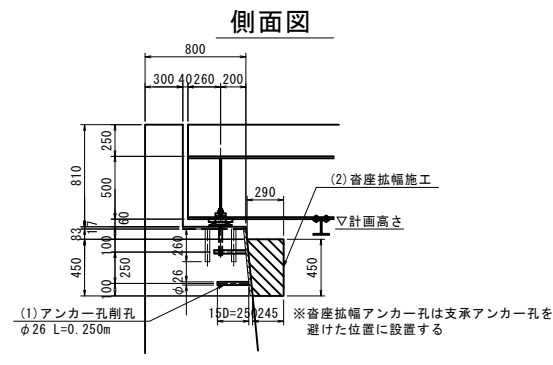
支承取替要領図 S=1:30

A1, A2橋台

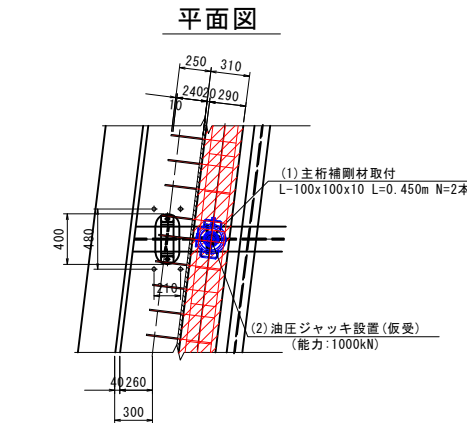
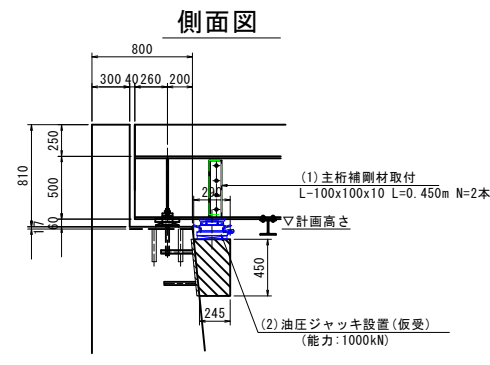
1 新設アンカー孔削孔



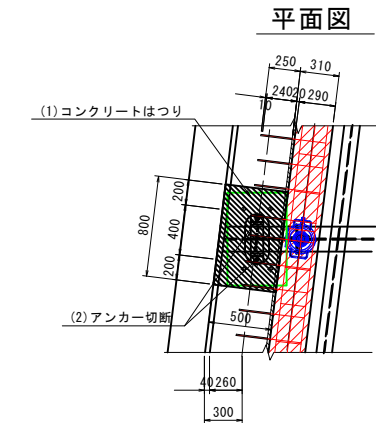
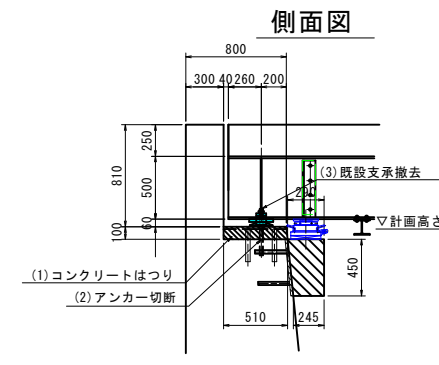
2 沓座拡幅施工



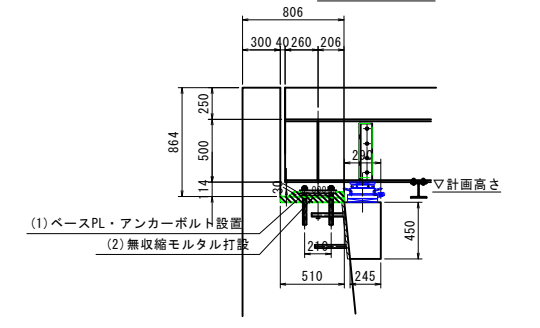
3 主桁仮受け



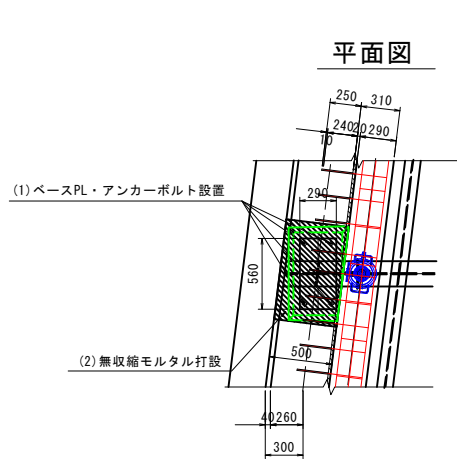
4 既設支承撤去



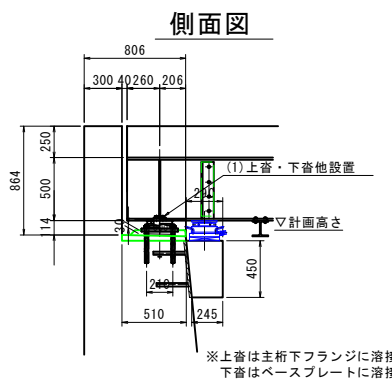
5 ベースプレート・アンカー設置



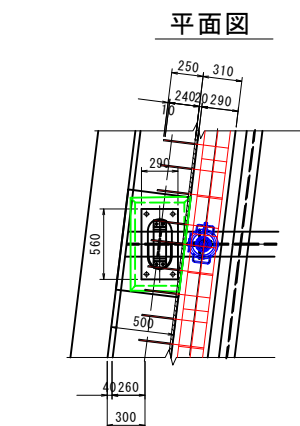
※新設支承高を確保して無収縮モルタルで固定



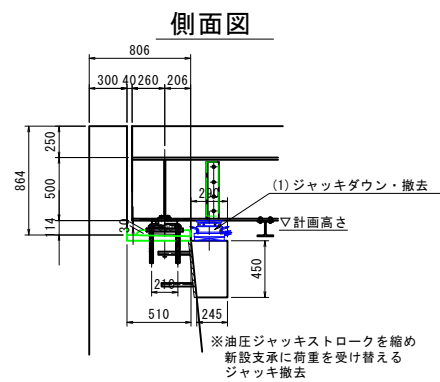
6 上沓・下沓他設置



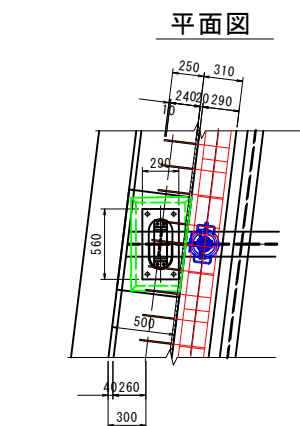
※上沓は主桁下フランジに溶接
下沓はベースプレートに溶接



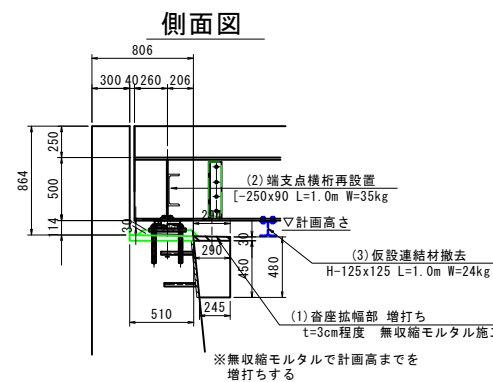
7 ジャッキダウン・撤去



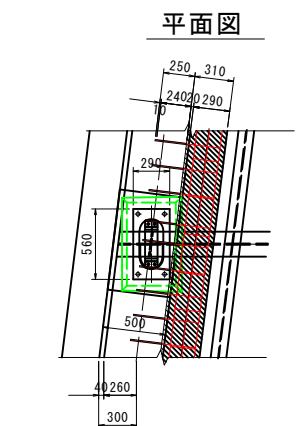
※油圧ジャッキストロークを縮め
新設支承に荷重を受け替える
ジャッキ撤去



8 沓座拡幅部増打ち他



※無収縮モルタルで計画高までを
増打ちする



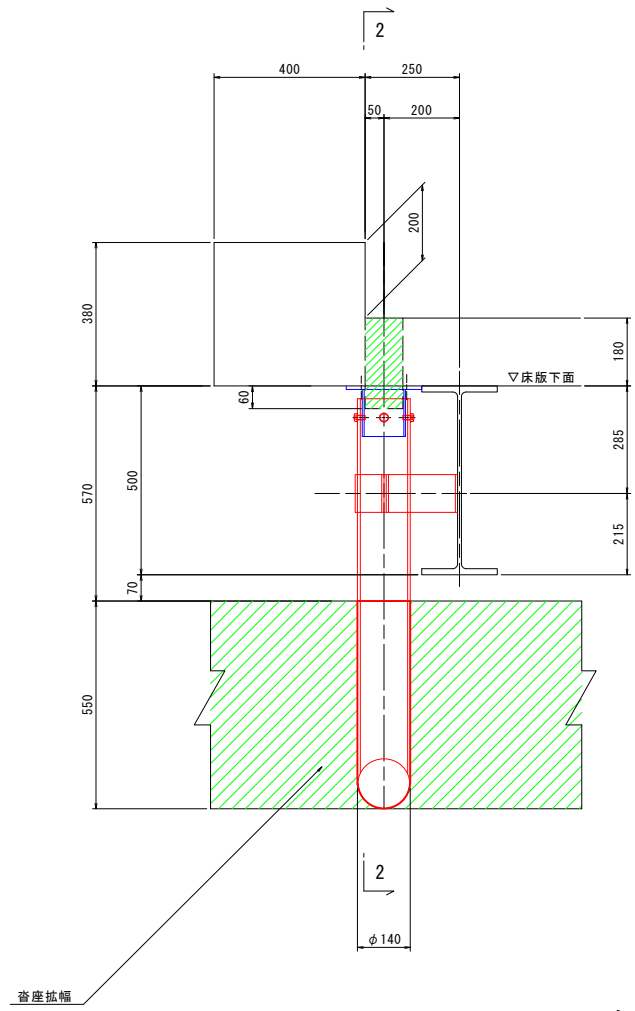
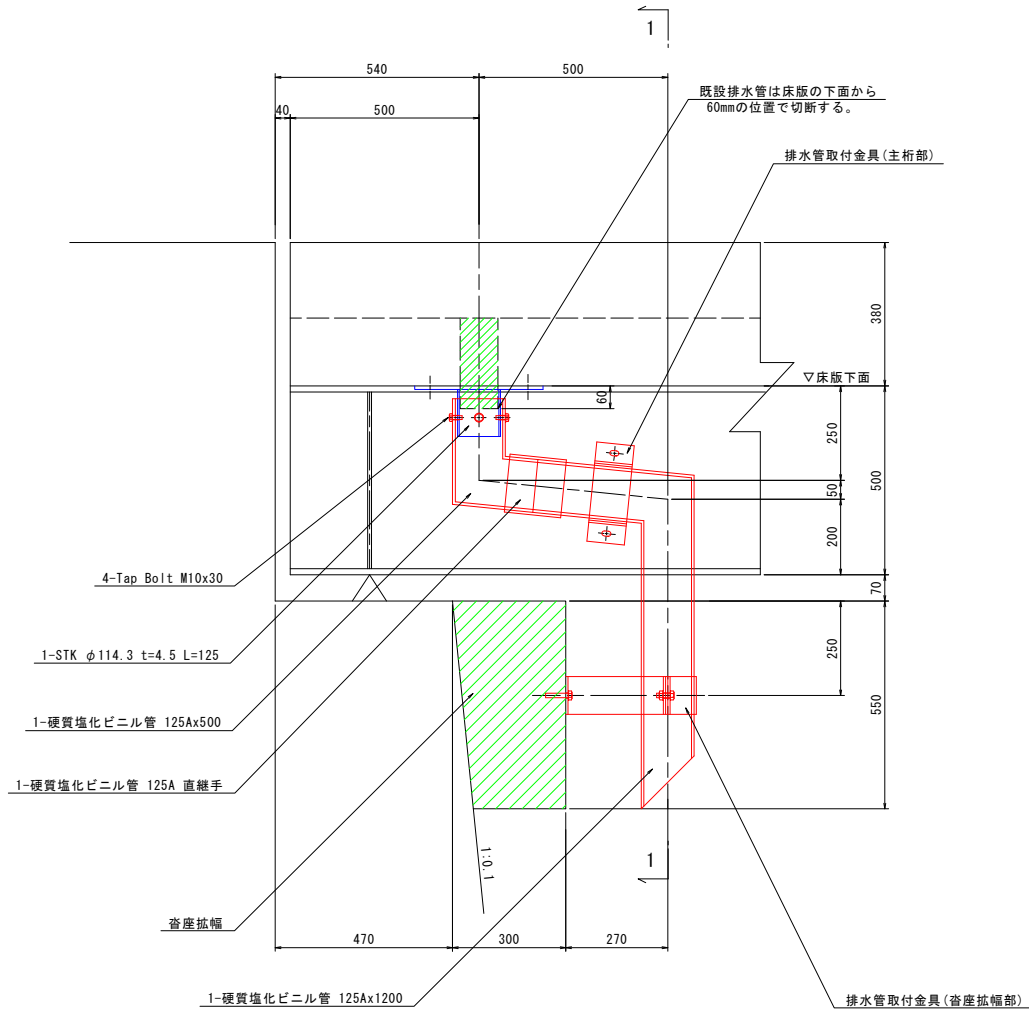
図面番号	第 10 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	支承取替要領図	縮尺	図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

排水装置取替構造図 S=1:10

排水管取付図

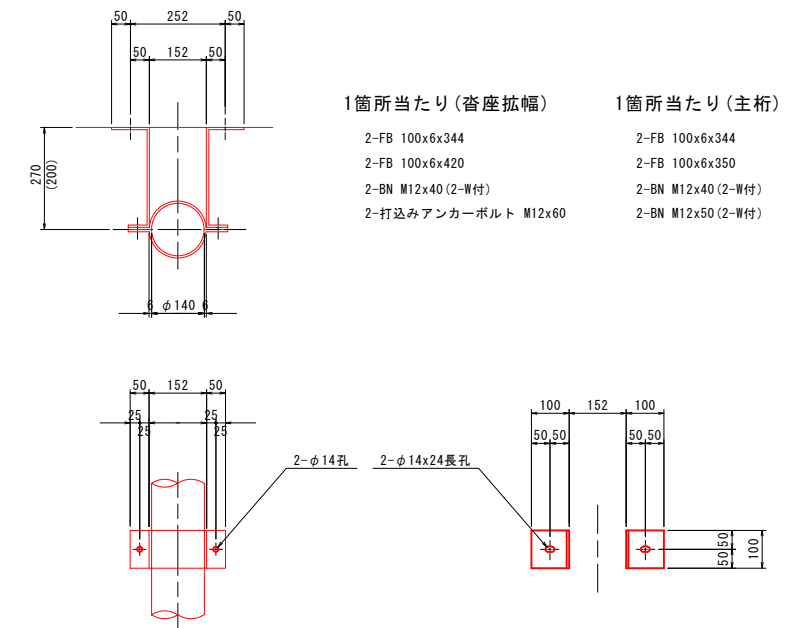
2 - 2

1 - 1



排水管取付金具

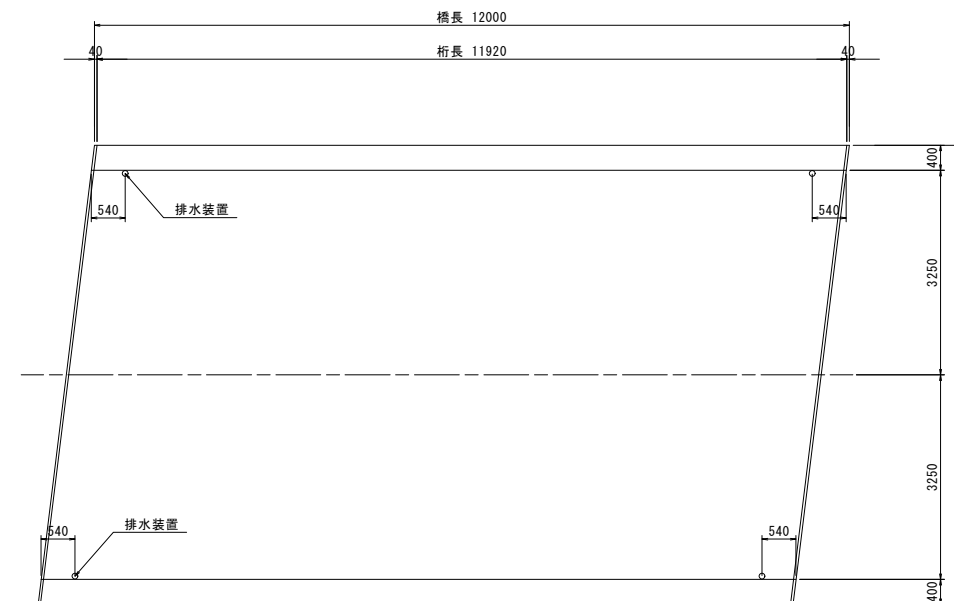
注：()内は主桁取り付け金具を示す。



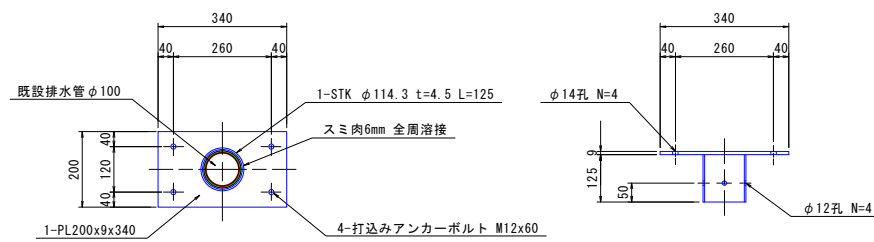
- | 1箇所当たり (沓座拡幅) | 1箇所当たり (主桁) |
|---------------------|--------------------|
| 2-FB 100x6x344 | 2-FB 100x6x344 |
| 2-FB 100x6x420 | 2-FB 100x6x350 |
| 2-BN M12x40 (2-W付) | 2-BN M12x40 (2-W付) |
| 2-打込みアンカーボルト M12x60 | 2-BN M12x50 (2-W付) |

- 排水管1箇所当たり
- 1-硬質塩化ビニル管 125Ax500
 - 1-硬質塩化ビニル管 125Ax1200
 - 1-硬質塩化ビニル管 125A 直継手

マーク図 S=1:60



排水口取付金具



- 1箇所当たり
- 1-PL 200x9x340
 - 1-STK φ114.3 t=4.5 L=125
 - 4-Tap Bolt M10x30
 - 4-打込みアンカーボルト M12x60

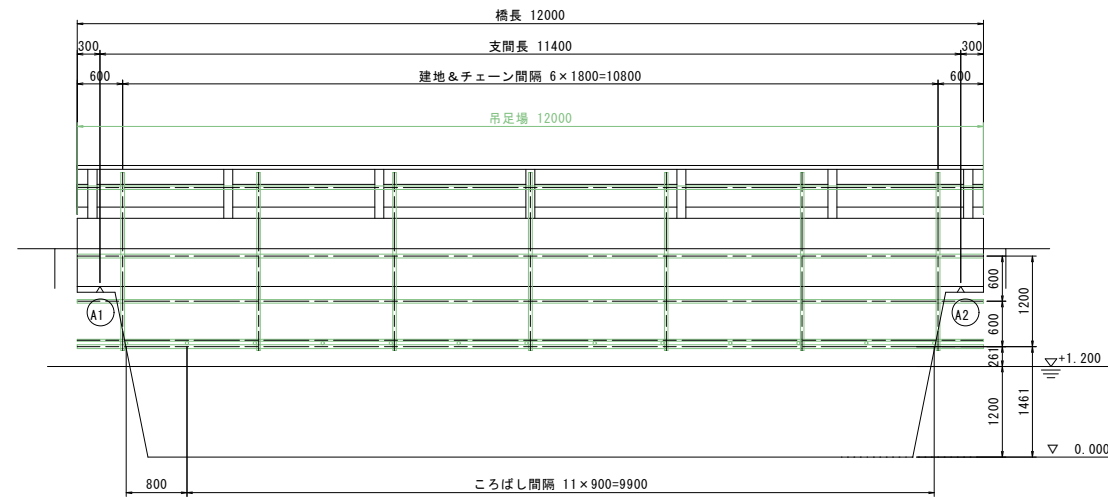
図面番号	第 11 号	図面総数	全 13 葉		
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事				
図名	排水装置取替構造図			縮尺：図示	
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度		
係員	課長	副課長	係長	係員	設計・製図 照査

注) 現地実測の上、数量を確定すること。

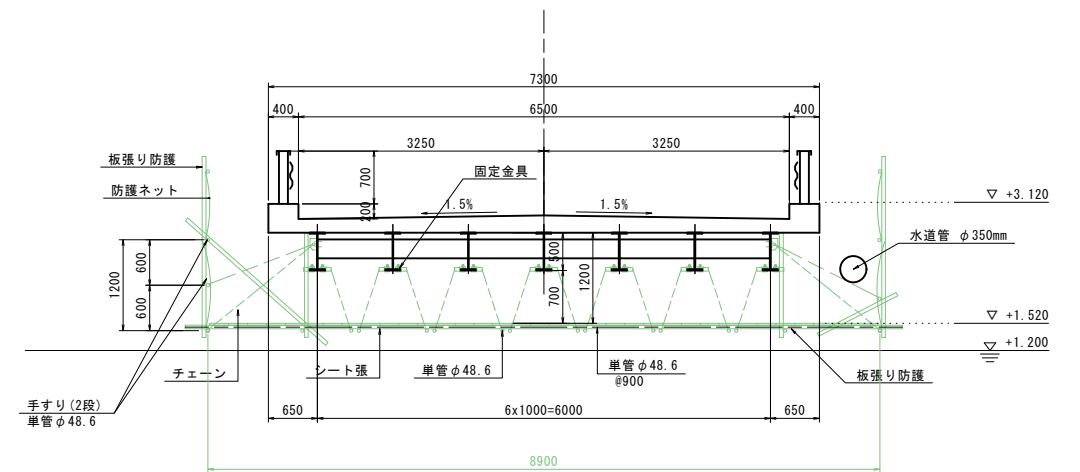
鳴門市 都市建設部 土木課

施工要領図(その1) S=1:50

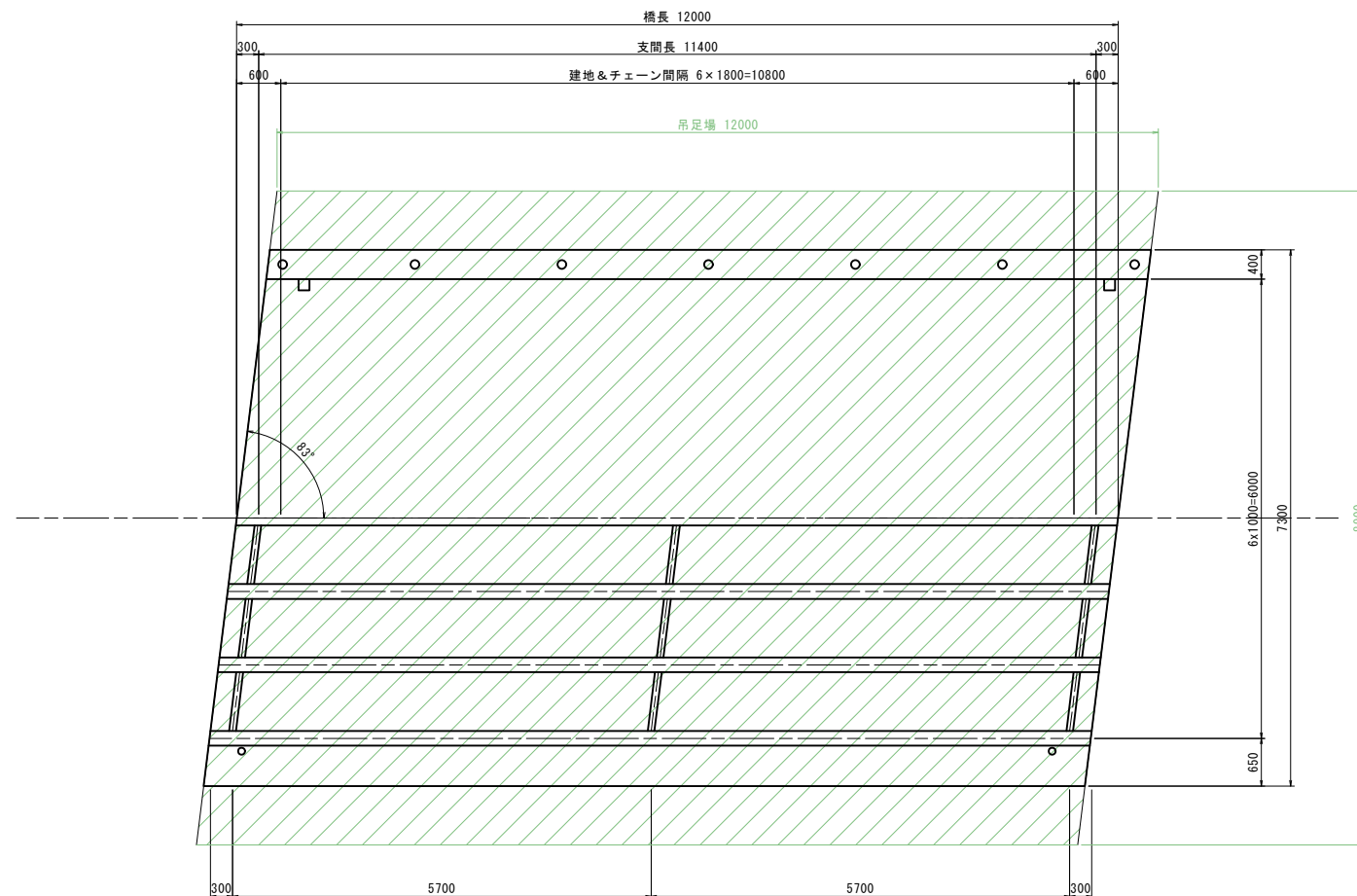
側面図



断面図



平面図



◆施工要領

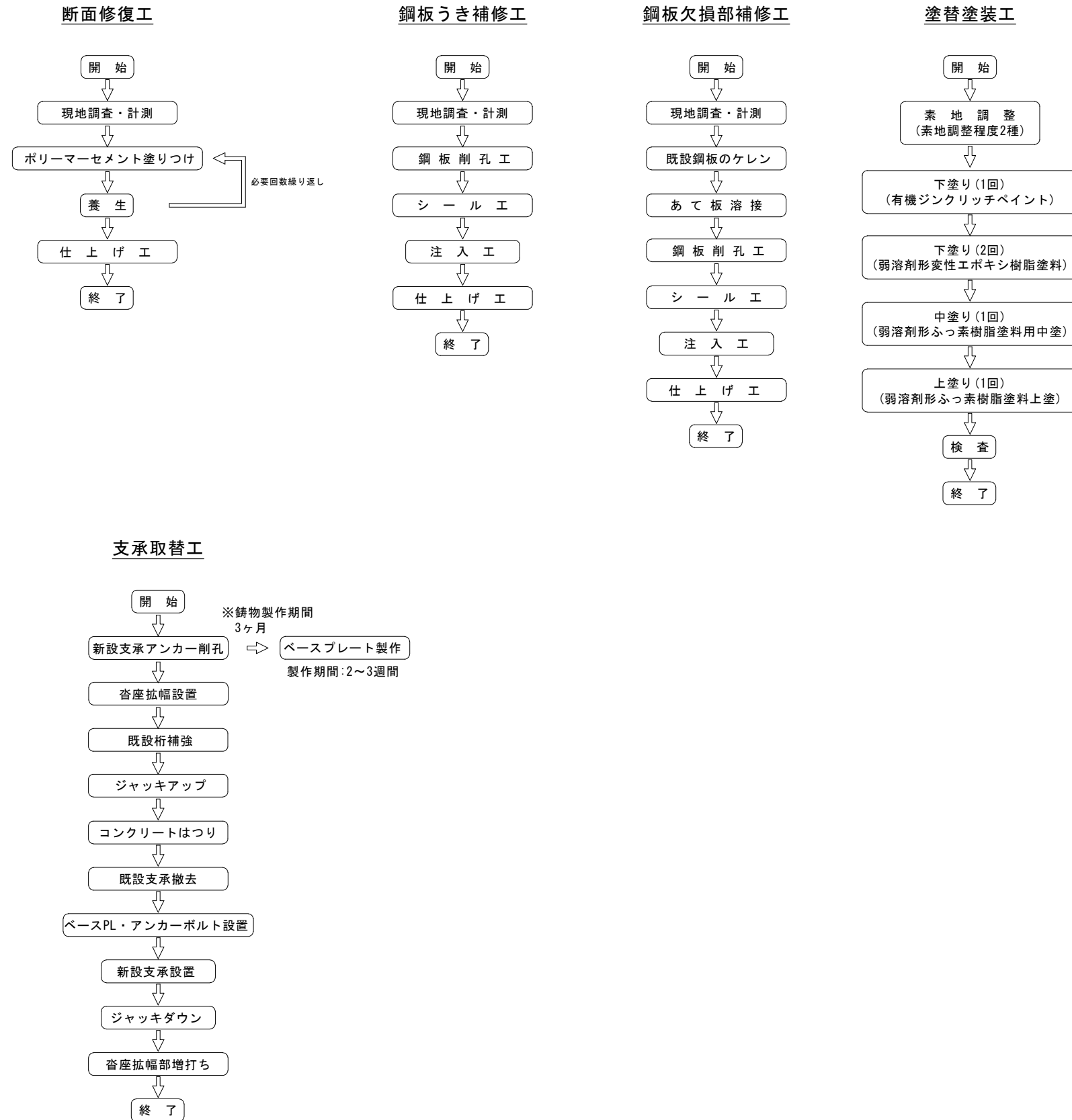
床版下面における補修工事については、基本的に吊り足場を設置して行うものとする。

橋梁補修概要

対象部材	損傷	対策工法	施工時足場・規制等
主桁・横桁 (鋼板)	鋼材腐食	・塗装塗替工	吊り足場
床版 (張出部鋼板)	鋼板のうき 鋼板、コンクリートの欠損	・断面修復工 ・鋼板うき補修工 ・鋼板欠損部補修工	〃
床版 (張出部以外鋼板)	鋼板のうき	・鋼板うき補修工	〃
支承	部材腐食 アンカーボルトの浮き上がり ソールプレートとの空隙	・支承取替工	〃
伸縮装置	部材欠損	・伸縮装置取替工	吊り足場、片側交互通行規制
防護柵	部材腐食 ボルトの脱落 部材変形	防護柵取替工	片側交互通行規制

図面番号	第 12 号	図面総数	全 13 葉
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事		
図名	施工要領図(その1)		縮尺: 図示
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

施工要領図(その2)



図面番号	第 13 号	図面総数	全 13 葉			
工事名称	堀江中央線4号橋橋梁補修工事					
図名	施工要領図(その2)					縮尺: 図示
製作年月	令和5年7月	所属年度		令和5年度		
係員	課長	副課長	係長	係員	設計・製図	照査